



3Rの推進で、ごみゼロ・循環型社会の構築へ！

第10回

3R推進全国大会

in
福井

開催報告書



平成 28 年 3 月

第 10 回 3 R 推進全国大会実行委員会

目 次

1. 大会概要	1
2. 式典	2
(1) 主催者挨拶	2
(2) 来賓挨拶	5
(3) 表彰式	6
3. 記念シンポジウム	8
(1) 講演	8
(2) 特別発表	22
(3) パネルディスカッション	26
(4) 次回開催地挨拶	50
(5) 名刺交換会	51
4. 関連行事	52
(1) 施設見学会	52
(2) 3R推進展示コーナー	53
(3) 3R体験コーナー	55
5. 資料	56
(1) 3R推進全国大会開催案内（参加申込書）	56
(2) 参加者用パンフレット	57
(3) 来場者アンケート	58
(4) 報道掲載記事	63

1. 大会概要

- 開催日時 平成27年11月21日（土） 13:00～17:00
- 会 場 福井県生活学習館（ユ・アイふくい）（福井県福井市下六条町14-1）
- 主 催 環境省、環境省中部地方環境事務所、福井県、3R活動推進フォーラム
- 開催内容

（1）式典（13:00～14:05）

- ・主催者挨拶 井上信治環境副大臣
西川一誠福井県知事
崎田裕子3R活動推進フォーラム副会長
- ・来賓挨拶 仲倉典克福井県議会議長
- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3R促進ボスター・コンクール最優秀賞表彰

（2）記念シンポジウム～食品廃棄物をはじめとした3Rの取組について～（14:05～16:30）

- ・講演「持続可能な社会を目指して」（14:05～14:45）
講師：百瀬則子氏
(ユニークループ・ホールディングス株式会社執行役員 グループ環境社会貢献部長)
- ・特別発表「食べきり寸劇」（14:45～15:05）
発表者：福井県連合婦人会
- ・パネルディスカッション「全国食べきりサミット～おいしい日本を食べよう～」（15:05～16:30）
【コーディネーター】
崎田裕子氏（NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・3R活動推進フォーラム副会長）
【パネリスト】
田中良典氏（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課循環型社会推進室長）
大石光紀氏（福井県安全環境部循環社会推進課主任）
豊田雅裕氏（埼玉県環境部資源循環推進課長）
橋本浩太郎氏（山口県環境生活部廃棄物・リサイクル課主任技師）
村上美夕紀氏（大分県生活環境部地球環境対策課主事）
土屋雄一氏（長野県松本市環境部環境政策課長）

（3）次回開催地挨拶（16:30～16:35）

- 手塚俊明氏
(徳島県県民環境部次長)

（4）名刺交換会（16:35～17:00）

（5）当日のその他のイベント

- 3R推進展示コーナー
- 3R体験コーナー
- 施設見学会（参加者30名）

- 参加者数 380名

第10回3R推進全国大会
式典の模様



2. 式典

(1) 主催者挨拶

●井上信治（環境副大臣）

本日は、3R推進全国大会に御参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、本大会の開催に当たり、御尽力をいただいた西川知事を始めとする福井県の皆様と関係団体の皆様に心から御礼を申し上げます。

環境省では、大量生産、大量消費する社会から、石油や金属などの消費をなるべく少なくして環境にやさしい「循環型社会」に変えていくため、3R、すなわち、ごみとなるものを減らす「リデュース」、繰り返して使う「リユース」、ごみとなったものを資源として再び利用する「リサイクル」を推進しております。

本大会は、その一環として、国民、事業者、地方自治体といった幅広い関係の皆様に一堂に会していただき、相互の取組についての理解を深めていただくとともに、3Rの具体的な取組を全国に発信していくためのものです。

この記念すべき全国大会の場において、本日、表彰を受けられる皆様に対しまして、心からお祝いを申し上げます。

このうち、循環型社会の形成への御功績により表彰を受けられる皆様には、その素晴らしい取組を全国に広げる地域のリーダー役として、引き続きの御活躍を御期待申し上げます。

また、ポスターコンクールにおいて、約1万点の応募作品の中から、みごと最優秀賞に選ばれた小学生、中学生の皆さん、是非コンクールのテーマである3Rを忘れずに、毎日の生活の中で続けていってください。そして、御家族やたくさんのお友達にも3Rの大切さを広めていってください。

それから、記念シンポジウムでの講演、特別発表、パネルディスカッションに御参画いただく皆様には、一般廃棄物の3分の1を占める食品廃棄物の発生を抑制する「食品ロス」の削減を始めとする先駆的な取組を全国に広げていくために、活発な御議論をお願いしたいと思います。

最後に、本日お集まりのすべての皆様。環境省は皆様とともに循環型社会づくりに一層努力してまいります。本大会が皆様にとって、3Rに関する知識を深め、相互に交流するよい機会となることを心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



●西川一誠（福井県知事）

皆さん、こんにちは。第10回3R推進全国大会の開催に当たり、一言、御挨拶申し上げます。

本日は、県内外からこのように多くの方々の御参加をいただき、心から感謝申し上げます。

また、環境省の井上副大臣、3R活動推進フォーラムの崎田副会長を始め、この大会の開催に当たりまして御尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

この大会は、ごみの減量化や再資源化を進める3R、すなわちリデュース、リユース、リサイクルに関する理解を深め、環境型社会形成を目指すために、毎年開催されるものであります。第10回という節目の大会を本県で開いていただきますことは、非常に喜ばしく、ありがとうございます。

今日は、循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰、3R推進ポスターコンクール表彰が行われます。受賞される皆様におかれましては、長年の活動の成果や御工夫が評価された受賞であります。心からお祝いを申し上げたいと思います。おめでとうございます。

さて、福井県は、日本総合研究所が発表した幸福度ランキングで第1位を占めております。また、小・中学校の学力・体力も全国トップクラスであります。こうした健康で活力ある生活の礎は、豊かな自然、食文化にあるはずであります。それらを守っていくためにも、限りある資源や自然から恵みを有効に活用する3Rを推進することが重要なと思います。

本県では、平成18年から全国に先駆けまして、「おいしいふくい食べきり運動」を実施しております。食品廃棄物の減少にも努めているところであります。この大会は、記念シンポジウムとして食品廃棄物削減をテーマの一つとした御講演や「食べきり運動」のパネルディスカッションを開催することになっております。この大会から「食べきり運動」を全国に発信していくことで、日本全体の食品廃棄物の削減につなげて行きたいと考えております。

この「おいしいふくい食べきり運動」は、おいしいという形容詞がついているのは、旨いものをちゃんと作って、ちゃんといただくというのが思想であります。今日と明日は、隣の施設で「ふくい味の祭典」や「北陸3県の食の祭典」を実施しておりますので、是非あわせて両会場でお楽しみをいただければと思っているところであります。

結びになりますが、本日、御参加をいただきました皆様の御多幸、御健勝を御祈念申し上げまして、開会に当たりましての挨拶といたします。ありがとうございます。



●崎田裕子（3R活動推進フォーラム副会長）

ただいま御紹介いただきました3R活動推進フォーラム副会長の崎田裕子と申します。よろしくお願ひいたします。

今、知事からお隣の施設で「ふくいの味の祭典」を開催しているというお話をありました。先ほど井上副大臣が到着されてすぐに「味の祭典」を見てきましょう」と言ってくださったので、私も一緒に伺って参りましたけれども、お昼直前でとても大勢の方が参加をされ、すばらしい味を競っておられました。とても大勢の方がいらっしゃるので、この会場には皆さん足を運んでくださるのかしらとちょっとドキドキしておりましたけれども、こんなに多くの皆様に御参加いただきまして、第10回3R推進全国大会を開催できまして、私も主催者の1人として大変感謝しております。ありがとうございます。

特に、今日表彰の受賞をされます循環型社会推進功労者環境大臣表彰と3R促進ポスターコンクール最優秀賞の皆様、本当におめでとうございます。今日の表彰をきっかけにしていただきながら、これから一層活動を広めていただければ大変ありがたいと思っております。

この大会は、3R推進で循環型社会づくりというのがテーマです。御存じのように、今、アジアあるいはアフリカなどで多くの国が発展し、人口も増えている中で、世界的に資源を大事に使っていかなければならなくなっています。ある試算によれば、全世界の72億人を超える人たちが日本と同じようなライフスタイルで暮らすと、地球2.3個分の資源が必要と言われています。この循環型社会づくりが目的とする資源を大事にみんなで効率よく使い、その後できちんと資源として循環させて、最終的には廃棄物にできるだけしないでエネルギーとしても活用する、こういう全体の流れをきちんと作っていくことが今まで以上に大事になってきていると思っております。

こういう輪ができるだけ身近なところから作っていき、資源の性質に応じて輪を広げていくという地域循環圏の考え方も出ていて、ますますこういう輪を作っていくことが期待されています。実は、そのためにはものづくりをするメーカー、販売店、私ども消費者、資源化する事業者、資源をどうやって集めようかというコーディネートをする自治体など、みんなが知恵を集めていく連携・協働が大変重要になってきております。

3R活動推進フォーラムは、こういういろいろな立場の方の連携・協働を広げていくことを大事にして、平成18年にスタートしております。福井県も「食べきり運動」をスタートされたのが平成18年と伺っております。こういう中で、是非今日の大会もいろいろな立場の方の連携・協働をつなぐ大事な行事として使っていただければありがたいと思っております。いつもこの大会は環境省と自治体の協力により開催しておりますが、今回は福井県が開催しようとおっしゃってくださいました。本当にありがとうございます。

この後、シンポジウムなどでもじっくりと皆さんとの意見交換をしながら、特に先ほどの知事のお話のように、今回はおいしい福井を食べきる、あるいはおいしい日本を食べきるためにどうしたらいいかという知恵の交換にもなりますので、今日をきっかけに皆さんとうまく情報を交流して、これから広げていければと思っております。

主催者の一人として、御挨拶をさせていただきます。どうもありがとうございました。



(2) 来賓挨拶

●仲倉典克（福井県議会議長）

皆さん、改めまして、こんにちは。御紹介をいただきました福井県議会議長の仲倉典克でございます。今日は、県議会から先輩議員、同僚議員、たくさんお見えでございますけれども、御指名でございますので、私から一言、御挨拶を申し上げたいと存じます。

第10回の記念すべき3R推進全国大会がこの福井県におきまして、全国各地から多くの関係各位をお招きして、盛大に大会ができますことを心からお祝い申し上げますと同時に歓迎を申し上げたいと思います。

また、後ほど表彰をお受けになられる皆様方、団体あるいは個人、そしてまた法人と、それぞれの皆様方の積極的なお取組に関しましても、心から敬意を表する次第でございます。

さて、今年は終戦70周年でございまして、この70年の間に、我が国は戦後の復興から高度経済成長、そしてまたバブルを経験しながら、今のこの成熟社会、そしてまた安定社会へと移ってきたわけでありますけども、その過程の中で、特に高度経済成長というものが、我が国のいわゆる大量生産、大量消費、そしてまた大量破棄の社会を構築してしまったのも事実であります。我々の生活環境ががらっと変わったのと同時に、環境という面では、負荷を余りにも重くし過ぎたことも事実でございまして、こういう現状からしっかりと脱却をして、これから新しい時代に向けた地域社会、そしてまた循環社会を構築していくかなければならないと思っております。

その中にありまして、やはり一番大事なのは、国民、そして県民の一人ひとりが意識の改革を持つということと、そういった意識の改革が連帶を生みながら、国民共通の意識の中でこの3Rを推進していくことが必要なのだろうと思っております。

今日は全国からたくさんの皆様方に結集をいただきました。そして、多くの先進的な事例も御紹介をいただけると聞いております。こういったことを通じて、また国民にそういった意識が普及し深まりますこと、またオールジャパンでこの3Rを推進できる土壤づくりに、さらに頑張っていただきたいと思っております。

今日の実りある大会の御成功を心からお祈りを申し上げまして、一言、地元の県議会議長として歓迎とお祝いの言葉にかえさせていただきます。誠におめでとうございました。



(3) 表彰式

●平成27年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている企業、団体又は個人に対して、環境省が毎年表彰しているもので、平成27年度は、企業14件、団体5件、個人2件が表彰されました。受賞者と功績内容は以下の通りです。

区分	都道府県	企業名・団体名・氏名	取組内容
企業	北海道	花本建設株式会社	平成8年に自然木の伐採木・伐根物等をチップ化するプラントを設置し、チップ化した伐採木・伐根樹等を、家畜の飼料やミミズを活用した有機肥料にすることにより、産業廃棄物の排出ゼロに取組んでいる。
	北海道	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	平成12年より、自社工場内より排出される廃棄物について、受入・調合・充填・パッケージ等すべての工程及び事務所でリサイクルを進める「ゼロ・エミッション活動」に取組み、平成13年よりリサイクル100%達成している。
	青森県	mizuirou株式会社	平成24年に野菜や果物等の残さを資源化し、それを原材料とした「おやさいクレヨン」の商品化に成功した。現在では、クレヨンだけでなく、自然素材でできた様々な商品を考案しており、残さの削減・リサイクルに努めている。
	岩手県	ニッコー・ファインメック株式会社	昭和55年の設立以来、金属回収や多品目の取扱ができる産業廃棄物処理業者として活動を続け、現在では、岩手県で初となる小型家庭リサイクル法に基づく大臣認定を受けるなど、他事業者の規範となる活動を展開している。
	岩手県	産業振興株式会社釜石事業所	平成23年から、東日本大震災で発生したがれき中の金属くずを独自に考案した最適加工選別処理法により、処理量5.88万tの内99.1%を再資源化し、最終処分量の削減に取組んでいる。
	静岡県	富士宮清掃有限会社	昭和46年から市の家庭ごみや資源ごみの収集を行うとともに、古紙回収事業を通じて学校への環境教育・資源循環教育に役立てている。
	静岡県	株式会社藤枝農産加工所	平成22年からフルーツ缶詰等の製造工程で発生する高濃度シロップをバイオガス化し、燃料として有効利用することで、廃棄物の発生抑制や化石燃料使用量減少による温室効果ガス排出量を削減している。
	鳥取県	三光株式会社	昭和56年より、多品目の廃棄物の適正処理及びリサイクルを実施し、生ごみや下水道汚泥の堆肥化、廃棄物処理の際に発生するエネルギーを利用した発電を行う等、サーマルリサイクルに積極的に取組んでいる。
	岡山県	バイオディーゼル岡山株式会社	平成20年より、岡山市と協働により、一般家庭、飲食店、食品製造工場等より排出される廃食用油から高品質なBDFを製造している。また、小学生等へ工場見学の機会を提供する等、環境教育を積極的に行っている。
	徳島県	日清紡ホールディングス株式会社 徳島事業所	当該事業所から排出される廃棄物の大半を占める動植物残さ(いちご葉)を自然乾燥させ、バイオマス燃料としてリサイクルを開始した。その結果、事業所内の廃棄物を99%以上リサイクルすることに成功している。
	福岡県	柴田産業株式会社	平成20年から小型家電の回収事業を開始するとともに、平成24年には産業用電子機器に含まれるタンタルのリサイクルについて、世界で初めて事業化に成功した。
	福岡県	医療法人 真鶴会 小倉第一病院	病院食の食品残さから堆肥をつくる活動を平成8年から開始。農業を営む患者に、作った堆肥を配布し、それを用いて栽培した野菜を使って食事を提供するといった循環型社会を病院内で形成している。
	佐賀県	株式会社イワフチ	容器包装リサイクル法の施行以前よりペットボトルのリサイクルに取り組んでいる。また、平成11年から福祉施設と連携して、施設利用者の積極的な雇用を推進することとともに、学校・団体等への工場見学受入れや環境出前講座を行っている。
	熊本県	株式会社日本リモナイト	平成13年に、下水処理施設等で発生する硫化水素の吸着剤の再生技術を確立した。本技術により、これまで埋め立て処分していた吸着剤を再生利用できるようになり、再生原料の確保とともに、資源の枯渇防止に貢献できるようになった。
団体	富山県	生活協同組合CO-OPとやま生ごみリサイクル研究会	平成5年から生ごみの減量化・リサイクルに関する研究を行い、堆肥化促進剤「ほかし肥」を開発した。その他、環境教育・普及啓発に取組んでいる。
	静岡県	熱海女性連絡会	平成15年、熱海女性連絡会を中心にマイバック運動を展開し、その後、市と協働で可燃ごみ減少のための雑がみ回収事業を推進している。
	京都府	特定非営利活動法人KES環境機構	平成19年より、企業内で3Rを推進していくために立てるべき計画、環境マネジメントに係る相談に対し助言等を行い、廃棄物の排出をゼロにする循環型産業システムの構築に尽力している。
	福岡県	地球温暖化を考える北九州市民の会	平成9年から活動開始し、「楽しみながらできること始めよう」を合言葉に、家庭のエネルギー利用、ごみの減量化等、我が家ができるCO ₂ 削減運動に取組んでいる。
	鹿児島県	大崎町衛生自治会	平成10年より缶・びん・ペットボトルの分別収集に際し、ごみステーションでの立会活動などを通じて分別収集の向上を図るとともに、本活動による徹底した分別の取組の結果、処分場の大幅な延命化が図られた。また、環境情報誌の発行を行うことにより、普及啓発活動にも取り組んでいる。
個人	広島県	小川 熟	平成13年度より現広島県資源循環協会理事に就任し、平成23年度には協会会长として、適正処理、不法投棄防止、3Rの推進に向けた同協会活動の主導的役割を果たしてきた。さらにNPO法人広島循環型社会推進機構副理事長等のとして各種リサイクル技術の開発等に貢献している。
	宮崎県	森末 富子	平成17年より、ごみを出さない暮らしを目指し、エコクッキングの実践、庭の雑草や枯れ木、果物の皮を使った堆肥づくりを進め、一般家庭の一日前平均排出量の10分の1という減量に成功している。その活動が環境啓発紙等で取り上げられるとともに、県の環境保全アドバイザー等として環境学習の推進にも貢献している。



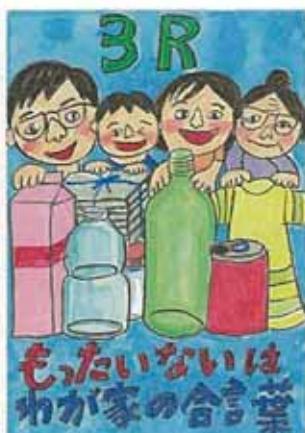
循環型社会形成推進功労者の表彰式（写真左は企業の部、右は団体・個人の部）

●平成27年度3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰

3R促進ポスターコンクールは、環境省と3R活動推進フォーラムが全国の小学生と中学生を対象に、3Rを促進するための普及・啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人ひとりが循環型社会のあり方について考えるきっかけにすることを目的としています。募集は平成27年5月18日～9月11日の期間に行われ、小学生低学年の部962点、同中学年の部2,334点、同高学年の部3,214点、中学生の部3,213点、合計9,723点の応募があり、各部門、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選定し、大会で最優秀賞の表彰を行いました。なお、大会会場では入賞作品のパネル展示も行いました。最優秀賞受賞作品は以下の通りです。



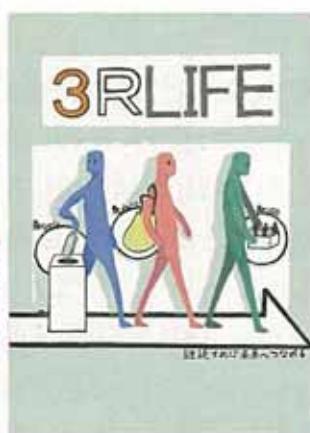
＜小学生低学年の部＞
香川県高松市立
古高松南小学校2年



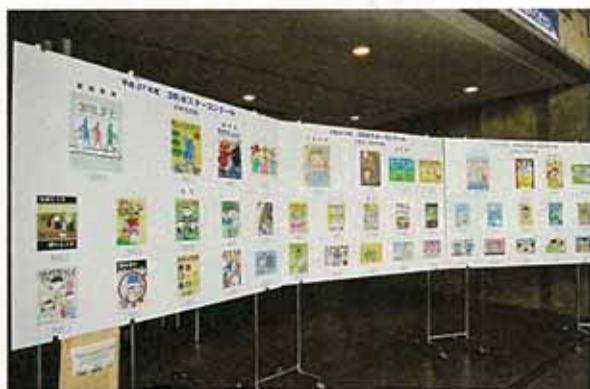
＜小学生中学年の部＞
愛知県安城市立
安城中部小学校3年



＜小学生高学年の部＞
栃木県那須郡那須町立
伊王野小学校6年



＜中学生の部＞
愛媛県伊予郡砥部町
砥部中学校3年



3R促進ポスターコンクールの表彰式（写真左）と入賞作品のパネル展示（同右）

3. 記念シンポジウム「食品廃棄物をはじめとした3Rの取組について」

(1) 講演「持続可能な社会を目指して」

ユニークループ・ホールディングス株式会社

執行役員・グループ環境社会貢献部長 百瀬則子

(略歴)

1980年ユニー株式会社へ入社。衣料販売に配属後、人事部、経営政策室、さらに4店舗で副店長を経験し、2001年より環境部へ。2003年に環境部長、2008年に環境社会貢献部長となり、現在に至る。環境省中央環境審議会循環型社会部会食品リサイクル専門委員会委員、日本チェーンストア協会環境委員などを務め、食品リサイクルや小売業における廃棄物の排出抑制に関して提言を行っている。



皆さん、こんにちは。私は、ユニークループ・ホールディングスの百瀬です。福井県の皆様にはアピタ・ピアゴという名前で、それから全国の皆様方には、サークルKサンクスというコンビニエンスストアでいつもお世話になっている会社の環境社会貢献部長です。ですから、私は大学の先生や研究者ではありませんので、この循環型社会、どうやって進めるのかということを論述することはできません。どちらかと言えば、私ども小売業は、一般市民、お客様と一緒にこの循環型社会をどう進めるのかということを日々実践しております。環境部へ配属された2001年からちょうど15年経ちました。その結果、今どんなことが成し遂げられたか、また、どんなことがこれから課題なのかということをお話ししたいと思います。よろしくお願ひいたします。

●持続可能な社会とは

表題の「持続可能な社会」とは何かを考えます(図1、図2)。私たちは今できるだけ資源を大切に、ごみを出さないで、次の世代に地球の資源をとっておかなくてはいけないと考えています。循環型社会を進めて行くと、循環可能な社会につながります。例えば廃棄物の処理から発生するCO₂を始めとした温室効果ガスやエネルギーを削減できます。そして私たちがいただいている食べ物はみんな命です。お魚や肉はもちろんですけれども、お米も稻という草の種です。野菜も果物もみんな命です。その命を私たちの生きていくためにいただいているのに、それを捨ててしまうのはもったいない。そして命に対して非常に冒とくです。ですから、私たちが循環型社会を進めることで、地球温暖化を防ぎ、なおかつ地球上に住んでいるいろんな生き物ちゃんと人間と一緒に幸せに生きていくような自然共生社会と持続可能な社会を作ることが大切だと考えています。ですから、本日は、廃棄物を削減したらこんなにCO₂が減るというお話や、食品リサイクルによる堆肥を使った土壌はとても生物多様性のためにになっているというお話をもていきたいと思います。そして、持続可能な社会は、今のことだけではなくて、未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、そしてこの未来に続く仕組みを作っていくことだと考えています。



図1



図2

私たちは、今、普通に息がでて、お水が飲めて、空も青いし、海で泳ぐこともできます。こんな地球が100年先の孫の孫の時代の子供たちにも残してあげられるかどうかは、この持続可能な社会を今から作る、もしくは今まで作ってきた活動を続けていくことが大きな要になります。

これ(図3)は、環境省からいただいた図です。天然資源を使って、私たちはいろんなものを作り、それを使ったり食べたりして、その残りやパッケージを廃棄します。それをリサイクルすることで新たに生産に投入する。こういう循環ができるところが循環型社会です。その中で、今までではどちらかといえばリサイクル、出てきた廃棄物を何とかして資源化しようというところに重きを置いていた感がありますが、今、大切と思われているのは、まず廃棄物をできるだけ出さないような仕組みづくりです。個人個人が出さないでおこうと思っても、要らなくなったものはごみになって出てきます。それを最初から出さない仕組みを作っていくかなければいけないわけです。また、どうしても出てしまう使い終わった製品や容器包装はどうやって集めたら合理的か、そして何にしたら一番有効なのかということを考えなければいけない。ですから、3Rは全部つながっているんですね。

その中で、循環型社会を形成するために法律が制定されてきました。特に、循環型社会形成基本法は、もう15年も前にできた法律です(図4)。15年間、どんな形で社会はこの法律を実現してきたか、そして私たち小売業もお客様と一緒に一生懸命この法律を実現するために、それぞれの地域で活動しています。そういうことを、お話ししていきたいと思います。

最初にできた個別リサイクル法は、平成12年にできました容器包装リサイクル法です。本日は平成25年にできました小型家電リサイクル法と、そして本日の大きなテーマであります食品リサイクル法の三つについて、消費者と私ども小売業、生産者、そしてリサイクル事業者が一緒になって進めている循環型社会形成のための活動を、皆様方にお話ししながら、一緒に考えていきたいと思います。

まず、ごみの排出量はどうなっているのか見てみると、一般家庭の廃棄物(図5)では、平成12年の5,483万トンをピークにだんだん減っています。そして最終処分量、要するにごみを燃やしたあとのがすを埋め立てた量も減っています。ということは、廃棄物をリサイクルしたり、また最終



図3



図4



図5

処分に対しても、非常に効率的に、最終的に地球に埋める量を減らしていると言えます。そして、この平成12年は、実は、容器包装リサイクル法が完全施行された年です。この年から、商品のパッケージ、容器包装を廃棄物にしないで資源として集めてリサイクルするという取組がスタートしました。ですから、一般家庭の廃棄物から容器包装がだんだん減っていった歴史もあるわけです。

そしてまた、平成13年は食品リサイクル法ができましたが、ただ、このときは一般家庭が食品リサイクル法の適用範囲に入っていなかったのです。食品を作る、それを流通させる、販売する、それを使って料理を提供する、そういう食品関連事業者が対象だったので、一般家庭の廃棄物から食品リサイクル関連の廃棄物が減った原因は、ここではないと思われます。

それから、平成17年には愛知県で愛・地球博がありました。そのときに、実はレジ袋を減らそうという運動がピークになっていました。スーパーで「レジ袋は要りません」というとカードにスタンプをくれて、そのスタンプカードを会場を持って行くと、すてきな記念品をもらえたり、たくさんカードを持って行くと写真を撮ってもらえてパビリオンに貼ってもらったりしたんですね。2008年、2009年、この辺り、急に減っています。何があったかと言いますと、レジ袋の無料配布中止が始まったのです。私が勤めているユニーでは2007年から、福井県では2008年から、レジ袋をもう無料では配りません、必要な人は買ってくださいという取組が始まりました。もしかしたら容器包装リサイクル法とかレジ袋というのは小さなことかもしれませんのが、そのことをきっかけに、家庭でごみを減らすということは大切なことだということが皆さん方の心の中に目覚めたのではないかと考えています。

次に産業廃棄物です（図6）。産業廃棄物は一般家庭ではなくて、主にものづくりをする現場から出る廃棄物です。これは量もそこそこ減っていますけれども、それよりもリサイクルが進んで燃やしたり埋め立てたりするがとても減ったのですね。これは減らしやすいのです。なぜかといいますと、工場から出る産業廃棄物は大体同じものが多いのです。例えば、食品工場でもパンを作っているところは、パンとか小麦、紙を原料にしているところだとパルプとか紙類、家電製品だとプラスチック類など

单一素材の産業廃棄物が多いので、リサイクルしやすいのです。お店屋さん、スーパーだとコンビニエンスストアなどから出るのは、産業廃棄物もあれば事業系一般廃棄物もあり、これは家庭と同じようにいろんな種類のものが出てきます。容器包装、食品関係、紙、プラスチック、それらを分別して再資源化することは少し工場よりは難しいかと考えられます。

このような状況の中で、ではスーパーはどんなことをやっているのかということを説明します。私の勤めているユニーでは、商品を仕入れますから、商品の搬入の後で、段ボールや発泡スチロールなどの容器包装や、食べられなかった食品などが廃棄されます。それを私たちが資源としてリサイクルしたり、もしくは適正処理をしたりする、そういう仕組みをこれ（図7）は表しています。

図の上の部分、スーパーが仕入れる商品は、生産者や工場から一旦倉庫に入ります。そこからお店に運びますが、大体容器に入ります。段ボールやプラスチックのケースやかごや、もしくは発泡スチロールの箱などが出ますが、これはほとんど100%リサイクルしています。左下のピンクの部分は、仕入れた商品を売り場に出すとき出てくる廃棄物です。例えば、キャベツは外側の葉っぱが汚れていたりするので取り



図6

ます。また魚市場から買った魚を刺身にした後の頭や皮や骨は大体廃棄されます。食品以外でもTシャツを仕入れると、段ボールに入ってきます。靴は靴箱に入っていて中に芯があります。そういうのも廃棄されます。それらを分別して、リサイクルを進めています。

真ん中のブルーの部分は、お客様の家庭から出る使用

済み容器包装の廃棄物です。私たちは、セルフサービスで商売をしていますから、お客様が御自分で売り場の冷蔵庫、冷凍庫、棚から商品を取って、かごに入れて、レジに行って精算します。ですから、必ず手に取れなくてはいけないです。例えば、お茶はペットボトルに入っていないと取れません。ビールもそうです。お魚やお肉はトレーに乗せてラップをかけて販売しています。そういう容器包装に入れられたものを私たちは販売をして、お客様は買って帰られる。そしてお客様が家庭で食べたり飲んだりして使い終わった容器包装はみんな廃棄物になるわけです。これを廃棄物にしないで資源にするにはどうしたらいいかということに、お客様と一緒に小売業も取り組んでいます。ですから、実際にはお店から出る廃棄物ではないのですが、家庭や社会に使用済み容器包装というごみを撒き散らかしながら商売をしているのかと言われるのは余りにつらいので、使用済み容器包装をお客様に持ってきていただいてリサイクルするという活動もしています。例えば、牛乳パックを集めてトイレットペーパーにしたり、アルミ缶を回収してアルミ缶にもう一回戻したり、そういう容器包装の店頭回収リサイクルをしています。

それから、最後に右下のグリーンの部分ですが、最後にお話しします小型家電や家電のところです。私たちは、販売した製品をお客様が要らなくなったときに、お客様から回収してリサイクルしています。最初に回収したのは、大型家電のエアコンや冷蔵庫、テレビ、それから洗濯機です。大きな四つの家電製品を集めたのが2001年からでした。2013年からは、もう少し小さい、小型家電を集めて資源を回収しています。この三色の部分が、私どもが関わる循環型社会への取組の部分です。そして、お店から出るCO₂をできるだけ削減することにも、この循環型社会というのは随分関わっています。例えば、廃棄物を減らすこと、それからお客様にレジ袋をお配りしないこと、そういうことも全部CO₂発生抑制につながってくるわけです。

また、先ほども申しましたように、食品は命です。命がどうやって作られているのか、土壌や水、また肥料やえさ、そういうこともきちんとと考えながら、そしてお客様にそれを御説明しながら販売することが大切だと考えています。今まで、スーパーのごみについてお話ししました。次に、スーパーに関連したリサイクルについてお話しします。

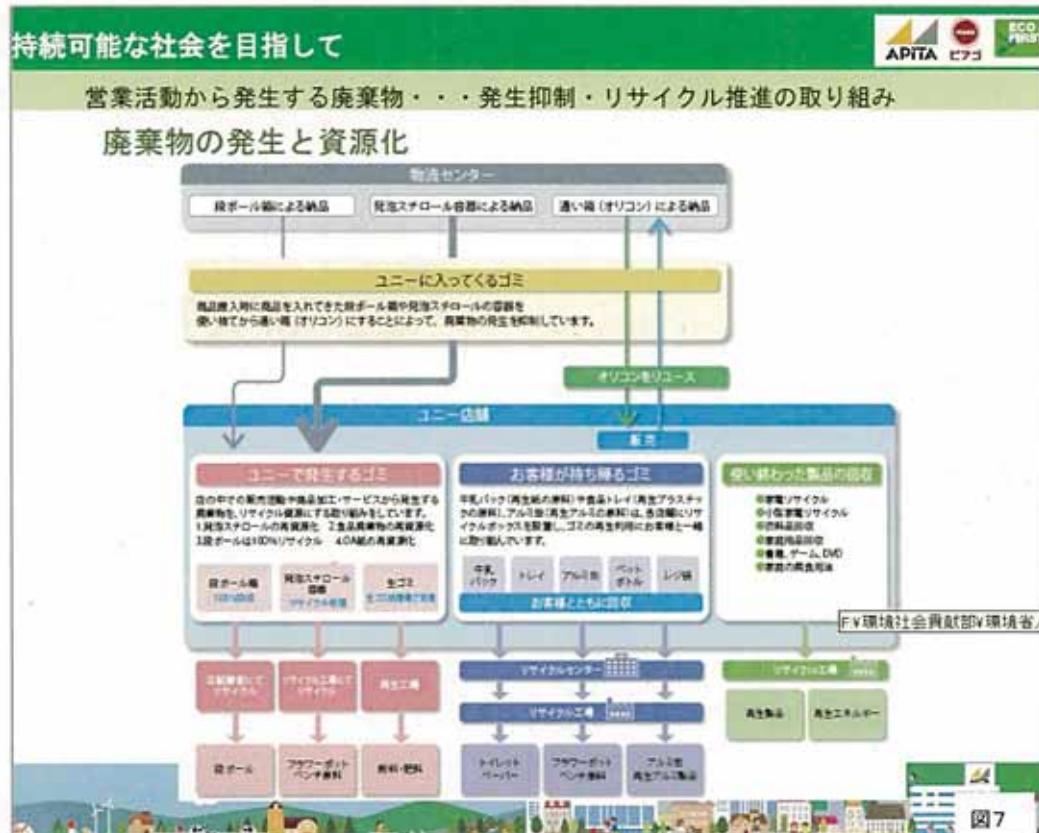


図7

●容器包装について

まず、容器包装についてお話しすると、使用済み容器包装は、実は家庭の廃棄物の中の何と60%にもなるという図（図8）です。私の住む愛知県大府市では、資源ごみを10種類に分けています。その中で、どう見ても、やっぱり容積が多いのは容器包装、特にプラスチック類です。ただし、湿重量で見ると、案外、容器包装以外のものが多く、右のグラフでは76.4%もあります。

容器包装リサイクル法という法律があるって、一般市民が家庭から出る容器包装を

できるだけ分別して自治体がそれをを集め、そしてそれを私たち容器包装で商売をしている容器包装メーカー、製品メーカー、小売業には再商品化を進める義務があります。特にこれらの6種類（図9）、ガラス容器の色つき、それから無色、それから紙製容器包装、ペットボトル、プラスチック製容器包装については、再商品化しなさいということが法律で決まっているわけです。

それらについて、市町村が集めることを担っているのですが、全部やるかやらないかは市町村の自由ですから、市町村がみんなこぞってやっているものもある

ば、そうでもないものもあります（図10）。みんなこぞってやっているものは、再商品化がたやすいものなのかなという想像もします。例えば、ここにありますように、どこも必ずやっているのは、アルミ缶であったり、ガラスの無色のものであったり、それから最近ペットボトルが多くなったりしていますが、なかなか手が出ていないのが紙製容器包装、例えばポッキーの箱とか、いろいろなお菓子、食品、それらの紙箱はこれに入るのですが、それらを集めている市町村はとても少ないです。また、プラスチック製容器包装は洗剤容器などですが、それも伸びてはいますが、ペットボトルやアルミ缶に比べると、割合は少ないという感じです。

では、小売業はどのような対応をしているかということですが（図11）、セルフサービスではどうしても容器包装が必要です。食品などは特に安全面・衛生面を含め、適正な容器包装に入れて販売するということがお客様の健康・生命を守ることにもつながっています。その容器包装をゼロにするのはとても難しいのですが、できるだけ小さく、薄くする。また、「使わない商売をしてみましょう」、それからどうしても使ってしまった場合、「容器包装を店頭で集めて、それを責任持って再商品化しましょう」ということに取り組んでいます。とは言っても、容器包装の原料、特にプラスチックは石油でできています、石油は今地球にあ

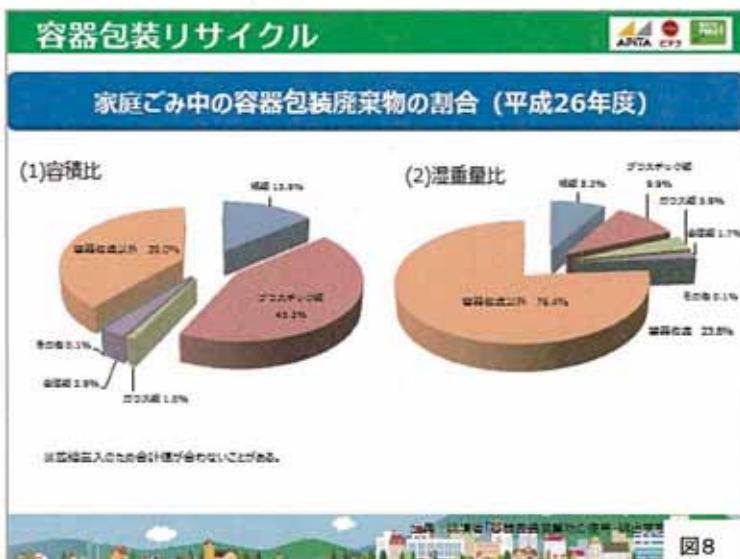


図8



図9

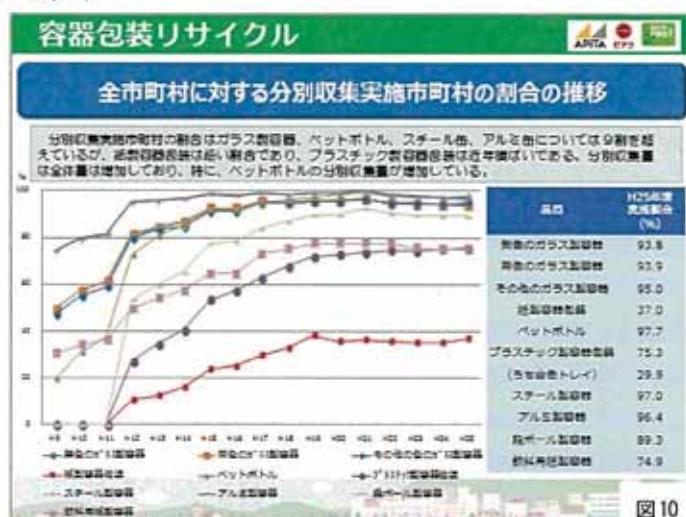


図10

る分しかありませんので、それを「何度も使えるものに替える」とか、もしくは「種を植えたらどんどん生える植物を原料にしたプラスチックを使いましょう」というように、サスティナブルな原料を使うということにも取り組んでいます。特にノーレジ袋キャンペーンでは、レジ袋を無造作に配らないで、欲しい方には買っていただいている。また、ばら売りとかも取り組んでいます。それからプラスチック製容器包装は重さがだんだん減っていて、これは枚数が減るというのも効果の一つですが、薄く小さくしているということも効果を上げています。それから、私も今使っていますが、「マイボトルを使いましょう」とか、そういうような活動を通じて、お客様と一緒に容器包装ができるだけ使わない販売を推進しています。お客様も「毎日の生活の中でレジ袋などの容器包装に頼らない消費生活をしましょう」という取組も行っています(図12)。

まず、リデュース、発生抑制の話です(図13)。レジ袋使用削減運動は、1989年からユニーはやっていて、無料配布中止は2007年、最初に横浜市緑区の店で1軒だけ実験してみたものです。一生懸命3カ月間かけてお客様に御説明したのですが、有料化が始まった月に売り上げが12%落ちました。普通は止めるでしょう。でも、ユニーは結構しつこい会社なので、お客様にレジ袋の5円ごときで来てもらえないのは、もっとサービスや配慮が足りないのではないかと、トイレをびかびかにし、チラシもとってもいい内容にして頑張りました。一番頑張ったのは、レジのパートさんたちで、大体主婦だったので、お客様の方に、「レジ袋をどんどんもらって、どんどん捨てるような生活をしていたら、自分たちの孫の時代には地球に住めなくなっちゃうかもしれないよ」と言って、一生懸命啓発してくれたのです。3カ月たったら売り上げは元に戻りました。

次に名古屋市緑区でレジ袋無料配布中止を実施した時には、ユニーもしくはユニーと一緒にその地域で商売をしているスーパー・マーケットには「みんな一緒にやろうよ」ということを呼びかけました。また、サポーターである名古屋市の職員、この黄色の服を着ている人(図14)ですが、女性会や子ども会、町内会の皆様方が近所のスーパーに行って、この地区ではごみを減らしたいか

図11

図12

図13

図14

ら、レジ袋は使わないでおこうね、これからはマイバッグを持ってきてねとキャンペーンで呼びかけてくれたのです。おかげさまで名古屋市の場合は緑区の19社32店舗で始め、次の年にはまた増え、今23社42店舗で実施し、成果を上げました。

ユニーは、2014年2月にすべてのお店でレジ袋を無料で配るのを止めました。その結果、有料化が始まったのは2007年ですが、その前年はレジ袋の配布枚数が3億1,000万枚でしたが、2014年には6,845万枚に減っています(図15)。重さも1,818トンが616トンに減りました。ということは、地球の資源を無駄にしない、使わないで済んだ。そしてごみも削減できたのです。これはユニーがやったのではなくて、一緒に地域の中で活動していただき、その活動に皆さん共感していただけて、「レジ袋がなくたってお買い物できる」、「マイバッグを持って行けばいい」と、市民の皆さんが思っていたからこうなりました。これはすごく大事なことだと思います。なぜかと言いますと、「レジ袋は要りません」ということを毎日やっている人が10年に1回車を買うときに、「だったら車はハイブリッドか電気自動車にしようかな、何だったらMIRAI」にするって考えるわけです。50年に1回、一生に1回家を建てるときに、「だったら太陽光パネルつけようかな」とか考えるわけです。エコライフスタイルは、頭で考えるのではなくて、毎日の「要りません」、「いいです」、「マイバッグ持って行きましょう」というところからだんだん心の中にちゃんと根づいて、育って、大きなお買い物をするときに、自分の人生を考えるときにぱっと花開くものだと考えています。

これは(図16)、チェーンストア協会というスーパーマーケットの団体で、レジ袋の辞退率がどれぐらい変わっていたかを示しています。平成14年には8%だったのが、平成27年、今年の3月には51%を超えてます。半分の国民の方が「要りません」という生活を選んでくださったのです。エコライフを選ぶということにつながったのですね。

それ以外にも、製品の中身と容器包装の割合を調べて、中身当たりの容器包装が少ない商品にマークをつけてお客様に選んでもらおうという「減装ショッピング」活動を神戸大学の学生さんたちとやっています。これは日本ハムと一緒にやった活動でした。お客様に、「中身も好きだけど容器包装も努力しているね、えらい、じゃあ買おうかしら」と商品を買ってもらうということは、お客様が票を1票投じてくださっていることだと考えています。たくさん売れれば、スーパーはもっと仕入れます。そのメーカーはもっと作ります。そのことによって、社会のごみは減ります。そういう活動の繰り返しが、容器包装リサイクル法の本来の姿ではないかと考えています。

次に、リサイクルの話です。スーパーは使用済み容器包装を集めてリサイクルしています。牛乳パックは、さっき表を見ましたら、自治体で集めているのは40%に満たないのですが、スーパーマーケットはどこでも大体集めています。スーパーマーケットは持って行く先を決めてから回収しています。それはちゃんと持つ



図15



図16

て行く先がないと、集めても、次の段階、再製品化に回せないからです。ユニーでは、すべての牛乳パックをトイレットペーパーにして販売し、お店のお手洗いにも使っています(図17)。

これは(図18)、チェーンストア協会のリサイクルボックスの回収の推移ですが、毎年一生懸命増やしています。ただ、最近ちょっと減ってきていますが、ガラスびん関係です。ガラスびんをリサイクルするのにはちょっと経費がかかります。また、重くて店での作業が大変なのです。ですか

ら、ちょっとガラス
びんのリサイクル
回収は伸び悩んで
います。

そして、これら容器包装3Rは地球温暖化防止にも貢献しています。環境省の「3R行動見える化ツール」では、レジ袋1枚、要りませんと言うと、何と30.8グラムのCO₂を削減でき(図19)、それで計算すると、ユニーでは2016



圖 17

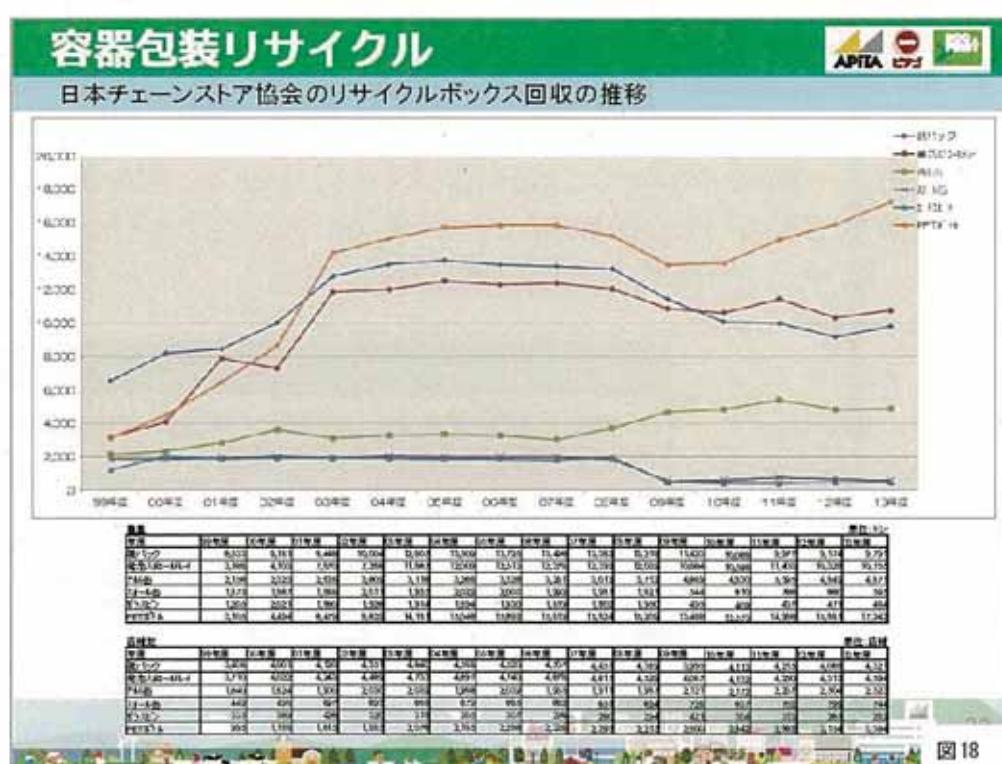


圖 18



图 19



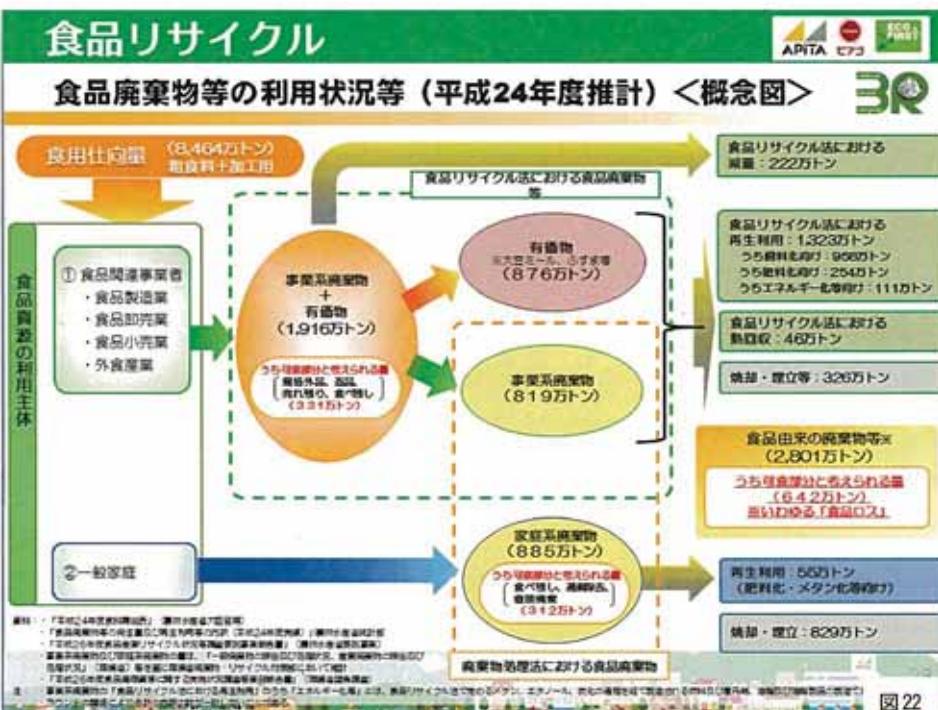
圖 20

また、サステイナブルな原料として、種を植えて、水をやって、光を浴びて、地上のCO₂を吸い込んで育つトウモロコシやサトウキビを原料にしたバイオマスプラスチックを容器包装に使っています(図21)。これのいいところは、石油と違って枯渢しないことです。石油のように枯渢するような原料を容器包装に使っていいのかなっていつも思っていたのですが、植物は種を植えれば毎年出てくるわけです。そういう植物で作るということはすごいでしょう。もう一つ、植物は地球上のCO₂を吸い込んでいるので、燃やしても地球上のCO₂は増えないので、吸い込んだものをまた放つだけなので、カーボンニュートラルと言います。これもCO₂の削減に役に立っています。

●食品リサイクル

次は、食品リサイクルの話です。食品リサイクルは、本当に毎日の生活に密着しています。私も、今日、ごめんなさい、お弁当が食べられませんでした。食べきれない、大体、廃棄物になってしまいます。食べきるといふことは大切です。食べるためにどうしたらいいのかということもすごく大事です。私たちスーパー・マーケットは、食べきっていただくとともに、商売上、出てくる廃棄物はリサイクルする義務を負っています。食品由来の廃棄物は年間2,801万トンあり(図22)、このうち、本当だったら食べられたかもしれないのが642万トンと推計されています。これを何とかしようという取組が重要になっています。これは本当に一人ひとりの市民が自分で選んで、自分で行動しないとなかなか進まないと思っています。

ところで、食品リサイクル法ができるときにはまず考えたのは、「私たちはたった40%にも満たない食料品しか生産していない日本でどれだけ捨てているのだろうか、よその国がもう売ってくれなくなったら私たち



はどうなるのだろうか、100年先の子供たちは生きていけるのだろうか」ということでした。そういうことで考えて、食品を捨てる前に何とかしてこれを捨てないで済ませるにはどうしたらいいのか、もしくは買う前に本当に食べきれるのか考える、そういうことが食品ロスを削減するところにつながるのではないかと思っています。

私たち食品関連事業者は、メーカー、それから流通している卸、小売、外食産業は廃棄する食品を、まず発生させない。それから、減量しなさい。水分を排除する、あとはリサイクルしなさい、それが法律で決まっています(図23)。平成13年にできた法律では、リサイクル率の目標は全業種20%以上だったのですが、平成19年には改正されて、小売業は45%、外食産業は40%リサイクルしなさいと改正されました。現状は、小売業は大体達成できましたが、外食産業と卸売業は厳しいところです。それから、平成26年にいろいろと見直しがされました。その中で、食品関連事業者だけではなくて、みんなで減らすにはどうしたらしいのかということで、自治体の役割、消費者の皆さんのがんばりがクローズアップされました。食料品は日本にいればたくさんあります。でも、食料がない国があって、余っているような日本があるから、世界中の人が日本人と同じようなものが食べたい、同じぐらいの量を食べたいと言い出したときに、日本の持ち分はどれだけになるのでしょうか。それを考えたときに、やはり産業界も、食品関連事業者、自治体、それから消費者も一緒に考えていかなければいけないです。

食品残渣の発生抑制についてお話しします。平成27年に新たな目標が決まりました(図24)。何と小売業は55%を何とかリサイクル、発生抑制もしくは減量しなさいと言われています。

まだまだ頑張らなければいけないので、その中で私たちが取り組んでいますのは、非可食残渣のリサイクルです。お店から出た食品系の廃棄物は、図(図25)にありますように、緑の部分はまず人間があまり食べられないものです。キャベツの芯とか、魚の頭とか、骨とか、そういう調理するとき出てくるものです。それから、このピンクの部分はてんぷら油だとか使い終わった油です。それから、この黄色い部分はレストランの食べ残しで、どちらかといえばそのまま食べません。ですから、一生懸命リサイクルに励みます。そして、青色部分は、製品廃棄、売り損ねたもの、売り余してしまったものです。例えば、皆様方はスーパー

食品リサイクル

食品リサイクル法の概要

(平成12年法律第116号 平成19年12月改正法施行後の内容)

○趣旨
食品の売れ残りや食べ残しにより、又は食品の製造過程において発生している食品廃棄物について、①発生抑制と減量化により最終処分量の減少を図るとともに、②資源として肥料や肥料等に再生利用又は再利用するため、食品関連事業者による再生利用等の取組を促進する。

○主務大臣による基本方針の策定

- 再生利用等の促進の基本的方向
- 再生利用率等を実施すべき量に関する目標 等
【我が国全体での業種別の再生利用率等実施率目標(目標年次: 平成31年度)】(※平成27年7月策定)
食品製造業(95%) 食品卸売業(70%) 食品小売業(55%) 外食産業(50%)

○関係者の責務
食品関連事業者(製造、流通、外食等) 消費者等 国・地方公共団体
発生抑制、減量、再生利用等 発生抑制、再生利用製品の使用 再生利用の促進、施策実施

○再生利用等の促進

- 主務大臣による判断基準の提示(省令)
 - ・再生利用率等を行うに当たっての基準
 - ・個々の事業者毎の取組目標の設定
 - ・発生抑制の目標設定 等
- 主務大臣あてに食品廃棄物等発生量等の定期報告義務(発生量が年間100トン以上の者)
- 事業者の再生利用率等の円滑化
 - ・「登録再生利用率事業者制度」によるリサイクル業者の登録・認保
 - ・「再生利用率実証計画認定制度」による優良事例(食品リサイクル・ループ)の形成

○指導、勧告等の措置

- 全ての食品関連事業者に対する指導、勧告
- 前年度の食品廃棄物等の発生量が100トン以上の者に対する勧告、公表、査定、罰金(取組が著しく不十分な場合)

→ 損耗廃棄物の低減及び資源の有効利用の促進

図23

食品リサイクル

食品リサイクル法の施行状況の点検結果

平成26年10月に報告書がとりまとめられた。その内容等を踏まえ、食品リサイクル法の新たな基本方針の策定(案示)等を行った(平成27年7月)。

基本方針の内容

- ・全品別事業者の既存再生利用率実施率の認定(農林水産省、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、環境省、外務省、内閣府)
- ・食品廃棄物等の発生抑制の目標達成に向けた取組の促進
- ・市民あげだ食品ロス削減活動実施等の展開
- ・マッチング等による食品リサイクルループ形成促進
- ・地方自治体との連携を通じた取組の促進 等

再生利用率実施率目標

	食品製造業	食品卸売業	食品小売業	外食産業
新たな目標値(平成26年2月)	95%	70%	55%	50%
現在の目標値(平成26年7月)	85%	70%	45%	40%
平成25年度実績	95%	58%	45%	25%

図24

マーケットに行かれると思いますが、9時に閉まるスーパー・マーケットへ8時45分に行くと、あと15分です。びしっとすべての商品がないとだめですか。私たちはいつもお客様の最後の一人がいらっしゃったときも、一定の量を並べておかなくてはいけないです。でも、売れ残したら、次の日にはもう販売できない商品もあるのです。お客さまに満足していただきつつ、売れ残りを減らしたい。そういうことを私たちは繰り返しています。消費者の皆様方と一緒に、こういう問題をどうしたらいいかというのをこれから考えたいと思います。

牛乳を買う時、皆さん、陳列ケースの前から取っていますか。後ろから取りますか。まずできた順に買っていただければ日付切れがなくなります。でも、皆さんは、できるだけ届いたばかりの新しい商品が欲しいと思われますね。気持ちはよく分かります。でも、今日食べてしまう、明日食べてしまうものはできるだけ前から買ってください。でも、私は1週間かけて牛乳を飲むという方は、どうぞ後ろから買ってください。そういう買い分けができるということが、消費者の知恵だと思います。

ユニーでは、すべての店には計量器を設置しています(図26)。分別は、19種類に分別しています。分別して、量ることによって、廃棄物の発生抑制につなげています。なぜかというと、廃棄物は、コストがかかります。燃やすにしろ、リサイクルにしろ、1キログラムいくら、それから配送料1キロメートルいくらかかるのです。そのコストを売り場ごとに全部精算してもらい、廃棄物が増えたら、コストがかかってしまいます。それで削減するために工夫をします。重さが分かると工夫をするのです。何が廃棄されてしまったの

食品リサイクル

スーパーから排出される未利用食品

未利用食品の発生原因

- スーパーでは市場や生産地から生鮮食品が搬入され、売り場に出すために調理します。
その時に排出する、野菜クズや魚のアラ、精肉クズなど。
- また惣菜やパンなど店内で製造する際、飲食店で調理する際に使用済み商食用油が排出されます。
惣菜など製造・飲食の商食用油
- 飲食店などでお客様が残した食品残渣
飲食の食べ残し
- 商品の売れ残り(生鮮食品・工場製品)

未利用食品は従来事業系一般廃棄物として、適正処分されていました

図25

食品リサイクル

営業活動から発生する廃棄物・・・発生抑制・リサイクル推進の取り組み

店舗から排出される廃棄物の発生抑制を図るために、発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。

ユニーでは全店舗に廃棄物計量器を設置し、徹底した分別と排出場所・分類別に計量することにより、発生抑制・リサイクル推進に努めています。

- 分別…リサイクル資源として活用するために素材毎に分けること
- 計量…廃棄物発生状況を把握し、発生抑制効果を測定すること

廃棄物計量システム

図26

か、仕入れし過ぎてしまったのかなとか、それから上手に利用できなかった、再資源化すればいい、というふうにだんだん考えます。それで、減りました。それから、分別することによって、リサイクルが推進されました。それらをスーパーの従業員が分別、計量を進め、毎年廃棄物の総量が減っています。

私たちスーパーマーケットでは、ユニーに限らず、みんな今一生懸命やっているのが、この食品リサイクルループです(図27、28)。この仕組みは、お店から出る食べられなかった食品を原料にして堆肥や飼料を作り、それを使って野菜や卵やお肉を生産してもらって、それをまた店で販売する。そして、お客様がそれを買ってくださるという、そういうリサイクルの環です。これって、さつきのトイレットペーパーと同じでしょう。リサイクルというのは環にならなくちゃいけないです。牛乳パック、トイレットペーパーなどをお客様が買われる、みんなが使う。食品の食べられなかったものが堆肥や飼料になって、農産物、畜産物になってまた売られる。そうしたら、お客様が買ってくださる。お客様が買ってくださって初めてリサイクルは回ります。ですから、循環型社会の最後に決め手になるのは、消費者の皆様方なのです。

食品リサイクル率(図29)は、チェーンストア協会の数字ですが、平成25年、2年前に48.8%まで上がりました。今度は55%を目指してやっています。これにつきましても、環境省の「3R行動見える化ツール」でCO₂を換算してくれています。実はこの食品を捨てないという行為がCO₂の削減にもつながっています。

●小型家電リサイクル

最後に小型家電リサイクルです。小型家電は、実は従来大型ごみとか埋め立てごみだったのですが、現在では、何と都市鉱山という名前がつけられています。家電製品には、希少価値のあるレアメタルが入っています。

食品リサイクル

食品リサイクルループを実施する社内体制

未利活用食品を店舗から出し、再生利用事業者から再生利用肥料や飼料を農業生産者に返すますが、廃棄物当該者の役割です。

農業生産者と施設側について話し合い、販売戦略を立て、店舗で販売するまで、仕入れ・販売担当者の役割です。

協議会議事の役割

商品化をリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生製品(堆肥や飼料)を利用する農業者を探す



再生利用製品(堆肥や飼料)を使って農業生産物(野菜や実物、飼料など)を作る

仕入担当者・卸売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを結ぶ

農業関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ充分にアピールする

図27

食品リサイクル

未利活用食品を再生資源化する・・・食品リサイクルループ

未利活用食品を再生利用する方法として、堆肥や飼料に資源化し、それを使って生産した農産物をまた販売する循環型農業、食品リサイクルループを構築するために取り組みました。

愛知経済連の協力で堆肥を利用するJAあいち海部のエコ部会が成立し、ループが完成しました。



<課題>

- 未利活用食品を原料にした堆肥の品質が適正であること
- 堆肥場を一般廃棄物処理場として、自治体から許可を得ること
- 他の自治体から未利活用食品を搬出・搬入するための許可を得ること
- 農業生産者が、堆肥を使って生産してくれるること
- 生産された農作物を販売すること

図28

食品リサイクル

日本チェーンストア協会の食品リサイクル率の推移

食品リサイクル率

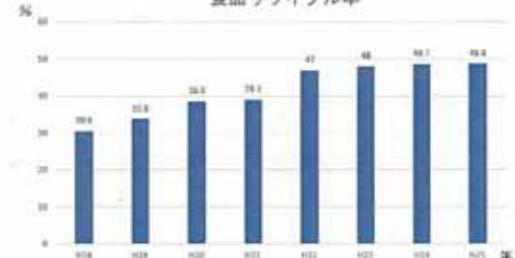


図29

ます。金も入っています。これをちゃんと利用しないで埋めてしまうのはもったいない、これをどうにかして集めてリサイクルしましょうということで、この図は(図30) 実は、ユニーの名古屋のお店で平成24年に実験してみたのですが、お客様は本当に持ってきてくださるのかという心配があつたのです。

このときに、大型スーパーのアピタと、それから家電量販店と、それからホームセンターで実証してみました。一番集まったのはどこでしょうか。スーパーだったので、買ったところじゃないんですね。皆さん、いつも行くところだったらついでに持って行けるということで一番集まつたです。ただ、集まつたのが有効なものばかりではなかつたので、このように、カメラの解体ショーなどを行つて、より有効なものを集めました(図31)。

でも、私たちは集めたものを資源化するルートが無いのです。トイレットペーパーは私たちが売っていますから、メーカーに持って行けます。食料品も私たちは農家の方や畜産業者から仕入れていますから、そこに持って行けます。でも、家電メーカーからは仕入れてはいますが、再生資源としてレアメタルをどうにかするところとおつき合いがないのです。ですから、私たちが集めますから、リサイクルルートは自治体にお願いするしかありません。

●次世代への啓発

ところで、これらのスーパーの環境活動を進めるために、誰にこれを伝えれば良いか、実は子供たちです。これは(図32)、ユニーのスーパーの中で必ずやっているお店探検という環境学習ですが、全店で店長がリーダーになって、自分の店を会場にして実施します。店長が子供たちを連れてリサイクルボックスに行って、「君たちが飲んだ牛乳パックがこのトイレットペーパーになっている」とか、それから廃棄物庫に行って、「分別、計量して、決められたところに保管することで資源化できるよ」と説明します。それから使用済みの牛乳パックで紙すきをやつたり、プラスチック容器でできなキーホルダーを作つたり、エコ工作などをやっています。店長がリーダーになることによって、子供たちを連れて店長が一生懸命説明する、廃棄物庫に入って子供たちが活動するから前の日に一生懸命掃除する、そういうところを通して、従業員は、これはすごく大切なことだと思います。当日、子供たちを連れて店長が店内を回つていると、一般のお客様が、「何をやっているのですか」と聞いたりします。そのことによって、お客様にも環境について興味を持ってもらえる。何よりありがたいのは、子供たちが店長に「ありがとう」と言ってくれることです。これは地域との大切なコミュニケーションです。この図(図33)は堆肥に手を突っ込んでいる子供たちですが、そうや

小型家電リサイクル

◆名古屋市の【使用済み小型家電の回収】実証試験

- ◆日 時
 - ・市民・事業者へ名古屋市の施策による都市型家庭用回収のあり方を明らかにする。
 - ・店舗内設立による回収可能量を把握する。
- ◆期 間
 - ・平成24年2月14日～3月11日
- ◆実施店舗
 - ・アピタ千代田店、エディオンメガカ大型店、カーマ1勝田店
- ◆追跡対象店舗
 - ・名古屋の大型小売店
 - ・店舗が協力してくれるところ



小型家電回収箱(平成24年から設置)

図30

小型家電リサイクル

◆名古屋市の【使用済み小型家電の回収】実証試験

●啓発事業

解体ショーの実施

→ 家電電話やデジカメなどの身近な小型家電を解体して、レアメタルがわかるように見せたり、お客様にも解体を体験してもらつた。



とてもリアルでわかりやすかった

図31

ってリサイクルつてどういうことなのか。自分たちがこれから大人になって生活をしていくときに、エコライフスタイルを選べるような、そういう大人にならなくちゃいけないということを体で覚えてもらっています。最後に、これはスーパーの環境部長としてではなくて、私たち、今生きている大人

たちが次の世代の子供たちにちゃんと資源をとっておいてあげること、そして生き方をちゃんと伝えること、そのことが循環型社会を形成していく本当の目的ではないかと思っています。ですから、この図に(図34)大層なことが書いてありますが、「未来に地球をまるごととておこう!」、次の世代、次の次の世代の子供たちのために、私たちは、今、循環型社会をちゃんと作り上げて、そして持続可能なそういう社会を渡してあげられるようにと考えています。

拙いお話をございましたが、ありがとうございました。

環境学習

ユニーのESD・・・次世代を担う子どもたちといっしょに3R

エコロお店探検隊

店長を探検隊長にして、地域の子ども達が店内を探検しながら、お店の環境保全活動や、環境にやさしい買い物物を学びます。

**リサイクルの
秘密を知ろう**

家庭から排出される容器包装をリサイクルステーションで回収しています。回収することで、ゴミではなく新しいものに生まれ変わることを伝えます。

**お店の裏側を
見よう**

お店から出るゴミの行き方を知ろう!

店舗の裏側を見学します。店舗から出るゴミは19種類に分別し、計量しています。計量することで、ゴミを減らす意識を高めます。また、折り畳み式のコンテナを使用し、段ボールの使用抑制に取り組んでいます。

**エコ工作に
チャレンジしよう**

通常なら捨てられてしまう容器包装などを使用したり、自然の素材を使ったエコ工作を行います。捨ててしまえばゴミになってしまいます。でも、工作で生まれ変わります。

使わなくなったものを材料にした工作体験!

図32

環境学習

ユニーのESD・・・次世代を担う子どもたちといっしょに3R

一宮市にある堆肥場で未利用食品(生ごみ)を原料に堆肥を製造します。子ども達は施肥場で、本州新米(生ごみ)が施肥になるところを見学しました。



図33

ESD (Education for Sustainable Development)
持続可能な開発のための教育

ユネスコESD世界会議が11月に愛知県・名古屋市で開催されました。

地球温暖化、資源の消費と枯渇、生態系サービスの劣化などで、私達人間の生存基盤である地球環境が持続不可能になりつつあります。

ユニーはESDに協賛し、次世代の子ども達に地球をまるごと残せる環境社会貢献活動を推進します。



図34

(2) 特別発表「食べきり寸劇」

福井県連合婦人会

○福井県連合婦人会 皆様、こんにちは。私たちは、福井県連合婦人会です。平成25年度より福井県から委託を受け、「おいしいふくい食べきり運動」の啓発活動を行っております。食べきり運動の中心となって活動する運動推進員を県内13市町の婦人会の会員の中から養成し、今年度は112名が活動しています。食べきり運動の活動の一つに保育園の訪問があります。園児や保護者に寸劇、紙芝居、ダンスなどを通して、食事を作ってくれる人への感謝とおいしい食べ物を残さないで食べることの大切さを伝えています。本日は、その寸劇を披露しますので、是非御覧ください。

○おばあちゃん ああ、寒い寒い。ただいま。

○お母さん おばあちゃん、おかえりなさい。どこへ行ってたん。

○おばあちゃん ただいま。あんな、箸屋の田中さんが、一生懸命に頑張っている従業員さんにはーっと忘年会、民宿で派手にする言うていうとったん。この「おいしいふくい食べきり運動」、宴会5箇条を説明しに行つとったんや。あのな、席を立たずにしっかり食べる時間を作りましょう。食べ残しのないように声掛けしましょうっていうな、説明をしに行つとったんや。忙しい、忙しい。



○お母さん おばあちゃん、「おいしいふくい食べきり運動」の推進員さんになってから生き生きしています。昨日はたしか福井へ寸劇に、明日は上中へアンケートに言うて、外へ元気にして行けるのはとってもいいことですね。

○おばあちゃん 私がおらんほうがええってか。

○お母さん いやいや、そんなこと言ってないんです。ほらちょっと、最近冷蔵庫の在庫管理うるさいときもあるけれど、それもとってもいいことやし、今日もね、おばあちゃん、冷蔵庫の中に残ってたものをたくさん使った豚汁と、花子の大好きなオムライスなんですよ。

○おばあちゃん そうか、ごみは減るしな、残り物の野菜使うてな、いろんなもんを作るし、我が家にはええことばかりやな。

○お母さん ほんまに。

○おばあちゃん はなちゃん、遅いな。もうそろそろ帰ってくる頃やけどな。

○花子 おばあちゃん、お母さん、ただいま。花子、ただいま帰りました。どうぞ、お入りください。ありがとうございます。おばあちゃん、いつも同じところで、大げさやな。

○おばあちゃん はなちゃん、相変わらず、吉本やな。

○花子 ただいま。

○お母さん はなちゃん、晩御飯今作ってるしね、もうちょっと待っててね。

○花子 待ってる。

○おばあちゃん はなちゃん、おかえり。

○花子 ただいま。

○おばあちゃん はなちゃん、何やその大きな袋は。

○花子 ～～、スーパーピックポテトチップスって言うのよ。これな、隣の西川のおばちゃんが帰ってたら、はなちゃん、はなちゃんって言うてな、もうおばちゃん食べきれへんわ、こんなんもらったけどなって言うて、はなちゃんやったら、しけへうちに食べれるやろ言うて、もらってん。いいやろ。

- おばあちゃん よかったな。はなちゃんやつたらしけへんうちに食べるわ。
- 花子 食べる食べる。西川のおばちゃんなん、何かいつもいいもんくれるな。何かこうやっていつも見てはるんちがう。花子の帰り。
- おばあちゃん それはな、はなちゃんがかわいらしいさかいやわ、明日もな、西川のおばちゃんの家の前通りな、何かくれるで。
- 花子 そうやな。うれしい。なあ、おばあちゃん、おばあちゃん。
- おばあちゃん ほれ、はなちゃん、これ。
- 花子 えつ。何それ。
- おばあちゃん これか。これは丁稚羊羹や。
- 花子 おばあちゃん、発音ええわ。やっぱり2020年の東京オリンピックに向けて、やっぱり違うな。
- おばあちゃん はなちゃん、丁稚羊羹言うんやで、食べるか。
- 花子 普通の羊羹と違うの。
- おばあちゃん そうや、あのな、福井では水羊羹って言うねん。小浜では丁稚羊羹って言うんやわ。
- 花子 へえ、すごいな。おいしそうやな。また、かしこなったわ。
- おばあちゃん かしこなった。はなちゃん、ますますかしこななるな。ほんなら食べよか。
- 花子 食べよか。
- おばあちゃん おいしそうやろ。
- 花子 どれどれ。
- おばあちゃん っていうか、はなちゃん、あかん。
- 花子 何で。
- おばあちゃん 食べたらあかん。
- 花子 どうして。
- おばあちゃん 今日は、お母さん、冷蔵庫の中にあるいろんなもんを使って、はなちゃんの大好きなオムライスと豚汁をつくってくれるって言うとった。
- 花子 やつた、花子の大好きなオムライスや、うれしいな。でもお腹ペコペコ。一枚ぐらいええやん。
- おばあちゃん そうやな、おばあちゃんも丁稚羊羹大好きやしな。
- 花子 食べよう。
- おばあちゃん 食べようか、一枚な、1本ぐらい。
- 花子 そうやって。
- おばあちゃん あかんって言うとるやろ、はなちゃん。
- 花子 何で、食べたい。
- おばあちゃん あのな、この間もカレーライスの前に、はなちゃん、おやつ食べて残したやろ。
- 花子 おばあちゃんだってそうやん。あのとき、そうや、お母さんが花子にご飯前におやつを食べさせないでくださいって、めっちゃ怒って、びっくりぽんやつたわ。もう怖かったな、震えるな。ほんまや。
- おばあちゃん はなちゃん、何食べたんやつた、あのとき。
- 花子 私何食べたんかいな。大福や。大福食べたんや。大福3個も食べたんや、おばあちゃん。
- おばあちゃん おばあちゃん、3個も食べた。



○花子 そうやって、そら食べれんわ。

○おばあちゃん そら食べれんわ。で、はなちゃんはいくつ食べた。

○花子 ほんの4個かしら。

○おばあちゃん えっ、はなちゃんのほうがおばあちゃんより1個多いけど。

○花子 おばあちゃんより花子のほうがずっと若いもん。入るって。

○おばあちゃん 入るな。ほんまや、あのときは、お母さん、カレーライス捨てとった。悲しそうな顔しつたな。

○花子 そうやった。

○おばあちゃん ええか、はなちゃん、ここのご飯できるまでには、農家の人は、お店の人、それを作ってくれる人、みんなが頑張ってくれるおかげなんやで。

○花子 はい。

○おばあちゃん それを残したらあかん、もったいない、もったいない。今日は、おやつ我慢して待ってよか。

○花子 わかった。花子ポテトチップス我慢する。

○おばあちゃん はなちゃん、えらい。

○花子 ご飯も全部食べる。

○おばあちゃん えらいな。

○花子 そうする。

○おばあちゃん お母さん、はよ持ってきてほしいな。

○花子 ほしいな。

○お母さん はい、はなちゃん、おばあちゃん、冷蔵庫のものいっぱい入れた特製オムライスできましたよ。

○花子 おいしそう。

○お母さん どうぞ。

○おばあちゃん ほな、はなちゃん、いただきます。

○花子 そうやそうや、小学校の大森先生も家で作ってもらったもんは、ちゃんと残さんと食べるんやでつて言うてはった。

○おばあちゃん ほんまか、ほな、花子もちゃんと食べよな。

○花子 いただきます。

○おばあちゃん いただきます。

○花子 おいしい。めっちゃおいしい。

○おばあちゃん おいしいで。

○花子 残り物とは思われへん。

○おばあちゃん おいしい、おいしい。ああ、おいしかった。

○花子 見て見て、横についてたパセリまできちつと食べたよ。

○おばあちゃん はなちゃん、えらいな。おいしかったな。

○花子 おいしかった。

○お母さん はなちゃん、もうちょっとゆっくり食べたらいいのに。おかわりは。

○花子 おかわり、ちょっと若干ここらへんに余裕がございますけど。

○おばあちゃん あれ、お母さん、そういういえば豚汁つくるって言うてなかったか。オムライスと豚汁言うて、何か、そんなん。



○お母さん 豚汁は、おとうちゃんが帰ってきてから、おかあちゃんと2人で食べる。

○花子 ええ、2人で、豚汁ラブラブやな。ずるいな。ほんなら、また、そのときに乱入しようか。

○おばあちゃん 一緒に豚汁食べよか。お母さんそうするわな。

○花子 ごちそうさまでした。

○おばあちゃん ごちそうさまでした。ほんなら片づけてもらおうか。

○花子 ごちそうさまでした。

○お母さん はい。

○花子 お母さん、ちょっと言うこと忘れていたかいな。

○おばあちゃん お母さん、忙しいさかいな。ほんでもよかったな、お母さんのうれしそうな顔見ると、食べてよかったと思うな。残さんと。

○花子 ほんと。おばあちゃんの言うとおりやわ。今日はポテトチップス我慢して全部食べれたし、よかつたって思います。皆さんもおうちでつくってもらったご飯や、それから給食なんかは最後までしっかり食べれるようにしてください。花子とお約束です。よろしくね。

○福井県連合婦人会 ありがとうございました。

○おばあちゃん ほな、はなちゃん。向こうで丁稚羊羹とポテトチップス食べよか。

○花子 そうしょ、そうしょ。おばあちゃんの部屋でゆっくりな。

○福井県連合婦人会 いかがでしたでしょうか。保育園で実施したときには、園児たちが私たちの寸劇を真剣に見て、目をきらきらと輝かして、「はーい」とか「全部食べるよ」と反応してくれます。私たち連合婦人会のおばちゃんたちは、園児たちにパワーをもらいながら、「おいしいふくい食べきり運動」を通して、ごみの減量化の活動を福井県に広げていきます。最後に、今年創作しました食べきり運動のダンスを披露します。このダンスは、保育園で園児と一緒に踊っています。簡単な振り付けですので、皆さんも是非一緒に踊ってください。



○福井県連合婦人会 ありがとうございました。これで福井連合婦人会の発表を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

(3) パネルディスカッション「全国食べきりサミット～おいしい日本を食べよう～」

【コーディネーター】

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・3R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子

【パネリスト】

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課循環型社会推進室長 田中良典

福井県安全環境部循環社会推進課主任 大石光紀

埼玉県環境部資源循環推進課長 豊田雅裕

山口県環境生活部廃棄物・リサイクル課主任技師 橋本浩太郎

大分県生活環境部地球環境対策課主事 村上美夕紀氏

長野県松本市環境部環境政策課長 土屋雄一

○崎田 それでは、これからパネルディスカッションを始めてまいりたいと思います。踊りで皆さんのが頭も非常に軽やかになったところで、しっかりと全国の状況について意見交換を進めていきたいと思っております。

今日、最初の御挨拶で、私は、資源が非常に今まで以上に重要になっているというお話を申し上げました。特に、食料に関してお話をすると、日本だけではなく、世界的に今これが大きな課題になっていまして、FAO、国際連合食糧農業機関というところが、今、世界の食糧の3分の1は廃棄物として捨てられているのではないかというデータを出しております。ですから、世界的な課題になっていて、国連を中心に、将来に向かって持続可能な開発目標を、SDGsと言いますが、どう立てるかを審議する動きがあります。その中に、この世界の食品廃棄物を2030年までに、2015年に比べて半分にしようという目標も出ています。こういうふうに世界的な課題になっている中で、私たちも自分たちの暮らし、そういうものを見直しながらきちんと食材を大事に食べるべき、そして出た生ごみは生かしていく、そういうような輪をこれからしっかりと作っていくなければいけないと思っています。

そのことについてお話し合いをするに当たって、全国でかなり先進的に取り組んでおられる県や市の皆さんにお越しいただいておりますので、もっと広げるためには、今何が大事なのか、課題なのか、何がポイントになるのかというところを、まず5分ずつお話していただこうと思っております。

それでは、まずスタートは環境省の田中さんから状況をお話しいただければと思います。では、よろしくお願ひいたします。

○田中 皆さん、こんにちは、環境省循環型社会推進室長の田中良典でございます。

それでは、私から先ほど百瀬さんからお話をございましたけれども、今、日本で、本当は食べられるのに廃棄されてしまう食品ロスが、どれだけあるのかというのを御説明させていただきたいと思います。

こちら(図1)を御覧ください。まず、食品関連事業者から出てくる廃棄物等1,916万トンのうち、規格外品、例えば品質的に問題ないのに、外見上の見かけ、大きさ、色などから規格外品と言われてしまうもの、あるいは返品されてしまうもの、売れ残ってしまうものなどで可食部分と考えられる量が331万トン、それか



崎田氏



田中氏

ら家庭で食べ残したとか、過剰に除去されるもの、あるいは直接捨てられるものなどで可食部分と考えられる量が312万トン、両方合わせて食品由来の廃棄物等2,801万トンのうち、本当は食べられるものが642万トンも生じてしまっております。こういった食品廃棄物等については、こちら(図2)の食品リサイクル法に基づいて、燃やす前にリサイクルできるものは、飼料だとか、肥料だとか、あるいはバイオガスなどにしたり、あるいはその

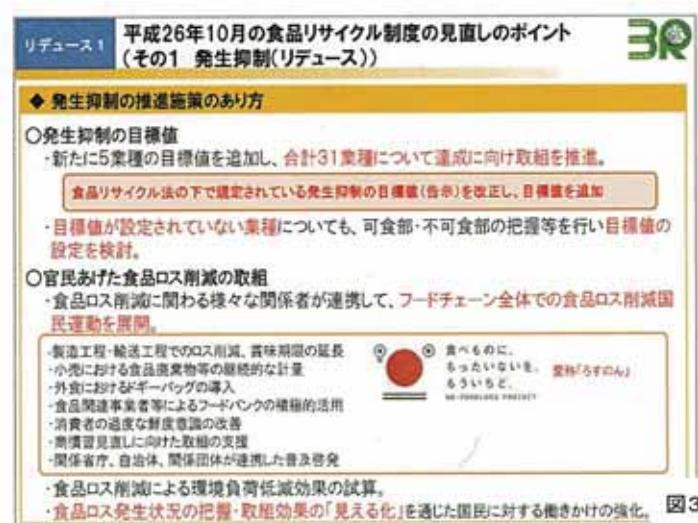
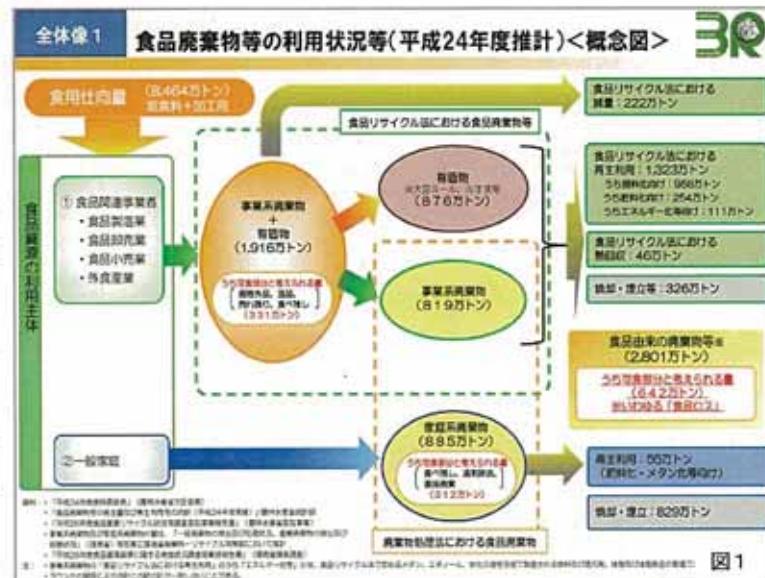
熱を利用したりしています。これも各事業者、自治体の皆さんに御協力いただいて進めているのですが、やはり物を循環させていくために一番重要なのは、ここに至る前に発生を抑制するというところであります。それが本日の重要なテーマとして挙げられたリデュース、食品ロスの削減でございます。

実は、平成26年10月に今の食品リサイクルの仕組みについて見直そうということで、崎田先生にも委員になっていただきました国審議会での議論の中で、大きく三つの方向性が出されました(図3)。

一つ目が、食品関連の事業者の皆さんに対して、食品ロスの発生抑制のための目標を新しく設定したりするという取組、二つ目は食品ロスに関わる皆さん全員で、生産から消費まで、フードチェーン全体で食品ロスを削減する国民運動を展開していくというもの、三つ目は食品ロス削減の環境負荷を低減する効果を試算して、見える化していくという取組、この三つの方向性が提示されました。

一つ目の目標について、今まで26業種には目標値がありました。新たに5業種に目標値を追加しました(図4)。

また、二つ目の国民運動については、関係省庁の基本方針の方で細かく書かせていただけております。例えば、製造業者の皆さん、メーカーの皆さんには、おいしく食べられる賞味期限を長くとっていただく、あるいはいつ作られ



たという年月日まできちつと表示していただくとか、原料を無駄なく使っていただくなとの取組が挙げられます。また、販売業者の皆さんには、量り売りとか、あるいは賞味期限が近づいているときに少し値下げをして販売していくだく、あるいは加工して惣菜などの形で販売いただくような工夫が挙げられます。あるいは、外食産業においては、例えば女性の消費者にもちょうどいいような実態に見合つ

たメニューの提示ですか、あるいは地方公共団体の皆さんと連携した食べきり運動などさまざまな取組、あくまでも食中毒などになってしまったら自己責任になってしまうのですが、食べ残しがもったいないということで、持ち帰り容器で持ち帰って家で食べていただくような取組が挙げられます。それからみんなでの取組として、納品期限といつて、製造日から賞味期限まで3分の1の時点までに小売店に納品しようという商慣行があるのですが、これも本来だったらおいしく食べられるものが廃棄されてしまうというような原因の一つになっているので、そういった商慣行を見直す取組が挙げられます。

家庭の中で出てくる食品廃棄物の中で(図5)、こういった調理くずとかはしょうがないのですが、食べ残しですか、あるいは手つかずの食料品などの食品ロスが4割あると言われております。このうち、賞味期限前に廃棄されるようなものも4分の1もあるというような実態でございます。そういった食品ロス削減の取組を、本日



図4

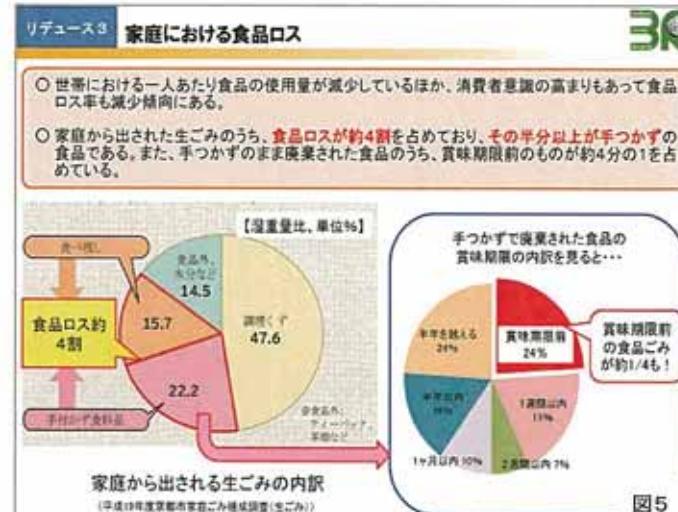


図5



図6

お集まりの自治体の皆さんなどに御協力をいただいております。

さらに三つ目の方向性としての見える化について、本日、環境省のほうで、火曜日（11月24日）にウェブサイトに公表させていただく3R行動見える化ツールを公表いたしました。今まで食品トレーなしで販売した場合、どれだけ環境負荷が減るか、マイボトルを使うとどれだけ減るかという35の取組に加えて、新たに6つの取組を追加した食品廃棄物編というのを開発しました（図6）。

一番上ですが、需要予測に基づいて在庫管理をして、事業者の皆さんが必要な分だけ仕入れ調達した場合、あるいは賞味期限が迫った商品を値下げしたり、弁当とか惣菜に加工したりして販売いただく場合、あるいは消費者自らが、ばら売りとかで必要なものだけ購入して、食べ残しをなくす場合、あるいは賞味期限が迫った商品をちゃんと購入して使い切る場合、そのほか、規格外品でこのまま捨てるのはもったいないというものをNGOと協力して、福祉施設等に無償で提供してもらうようなフードバンクの取組に協力していただく場合、この6つの取組を選択し、自分の行動でどれだけ廃棄物が減ったかを入力していただくと、最終処分量がどれだけ減ったか、あるいは天然資源の石油や水の使用量がどれだけ減ったか、あるいは二酸化炭素排出量がどれだけ減ったかというのを瞬時にエクセルで計算してくれます。これはパソコンがあればどなたでも自分の家でできます。これを月別ですとか、あるいはグラフの形でもわかりやすく表示するというようなツールでございます。

簡単ではございますが、私から概略的な環境省の取組について紹介させていただきました。ありがとうございます。

○崎田 ありがとうございます。それでは、埼玉県の豊田さんのほうからよろしくお願ひいたします。

○豊田 ただいま御紹介いただきました埼玉県の豊田と申します。私ども「食べきりSaiTaMa大作戦」



というのをやっておりますけれども、今日お集まりいただいた中では、一番後発組といいますか、新参者でございます。実際には、昨年の9月から実施していて、まだまだよちよち歩きでは

ございますけれども、私どもの取組を少し御紹介させていただきたいと思います。

「食べきりSaiTaMa大作戦」と埼玉をローマ字表記し、SとTとMが赤く大文字にしてあります（図1）、三つの取組をそれぞれ表しております。

その一つが「食べきりスタイル」ということで、食品ロスができるだけ出さないライフスタイルを普及しましょうという取組です。もう一つが「食べきりタイム」ということで、食べ残しをなくすように、宴会終了前は食べ物を食べ

「食べきりSaiTaMa大作戦」とは

埼玉県では、平成26年9月から、3つの取組により「食品ロス」を徹底的に減らす作戦を実施しています。

取組その1「食べきりスタイル」Style
食品ロスができるだけ出さないライフスタイルを実践する。

取組その2「食べきりタイム」Time
食べ残しの多い宴会で締めの前15分間で残った食事を食べる。

取組その3「食べきりメニュー」Menu
外食店舗で小盛りの設定や食材使い切りレシピなどで食品ロスを減らす。

フェイスブックを活用し、「食品ロス」削減に関する情報を発信中

Copyright © 2017 Saitama Prefecture. All Rights Reserved.

図1

フェイスブックを活用した情報発信

フェイスブック「食べきりSaiTaMa大作戦」を活用し、食品ロス削減関連の情報を発信しています。

フェイスブックの掲載例

「食べきりSaiTaMa大作戦」で特典をお贈りします。

Copyright © 2017 Saitama Prefecture. All Rights Reserved.

図2

ましょうということでタイムのT、それから「食べきりメニュー」ということで、小盛りのメニューとかとか、そういうなるべく食品ロスを出さないお店を増やしていくというような主な三つの取組を進めております。

こういった取組をいかに広めているかということで、今、一生懸命取り組んでいます。もちろんマスコミの皆さんに情報を提供したり、県の広報紙を使ったりして、アピールをしておりますけれども、フェイスブックを使った情報発信もしております(図2)。これは実際にフェイスブックでお知らせした内容ですけれども、埼玉県にある県立大学の講座をお借りして、食品ロスの講義を職員が講義を行ったものと、「食べきりSa iTaMa大作戦」の一つの「食べきりスタイル」の中で、今年の夏に行なった親子エコクッキング講座を紹介したもので(図3)。こうしたものを活用して、広く情報を発信することで運動を広げていきたいと考えていて、「食べきりSa iTaMa大作戦」で検索していただきますと出てきますので、是非御覧になってください、いろいろコメントなども寄せていただけると大変ありがたいと思っております。

それでは、それぞれの取組を少し詳しく説明させていただきたいと思います。まず、「食べきりスタイル」は、夏休みに親子でエコクッキング講座を東京ガス埼玉支社の協力をいただいて行なったものです。実際に調理を行う上で、買い物から片づけまで、いろいろな場面で様々な工夫することによって食品ロスを減らしますということをPRしていく、実際に参加したお子さんたちからは、とても勉強になったとか、楽しかったと大変御好評をいただきましたので、これも頑張っていきたいと思っております。

それから「食べきりタイム」(図4)ですが、皆さん宴会時には食べ残しの多い場に出くわすことが多いと思うのですけれども、これは今日来ておられる松本市さんの取組を大変参考にさせていただいて始めたものでございます。宴会では、どうしても残ってしまいがちになりますので、例えば幹事さんからお開きの15分前にお声掛けをしていただくという取組を進めております。こういったポケットティッシュも作って、いろんなところで配ったり、いろんな会場でお話をされて、進めております。

その次は、取組その3「食べきりメニュー」です(図5)。こちらの写真は、「食べきりメニュー」を協力していただけるところは、エコグルメ協力店というふうに銘打って登録制度にしております。これは大学の

取組その1 「食べきりスタイル Style」

買い物から、調理、片付けまで、食べ物を扱うすべての場面で、食品ロス減らすことを意識する。食べものは残さず使い、残さない。

【親子エコクッキング教室】

- ・日時: 平成27年7月28日・29日、8月5日・6日 10時30分～13時
- ・場所: 東京ガス キッチンランド浦和・大宮(埼玉県さいたま市)
- ・内容: 東京ガス埼玉支社の協力を得て、夏休み期間中に、親子で料理を楽しみながら、「食品ロス」の削減方法等について勉強してもらう。

参加者: 小学生7名とその保護者37組
(※男子17名、女子20名)
参加動機: 料理に興味があった 20名
理由に興味があった 17名
主な感想: 「環境について、とても勉強になった」「美味しい楽しく勉強ができる」「エコに関する講座が分かりやすかった」

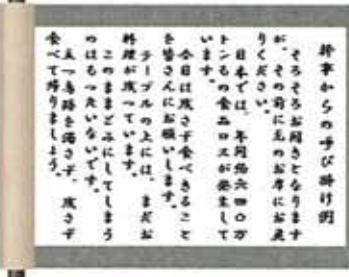


Copyright © 2012 Taisei Promotion, Inc.

図3

取組その2 「食べきりタイム Time」

宴会では、食堂・レストラン(ランチ)に比べ、約5倍の食べ残しが発生しています。宴会での食べ残しを減らすため、お開きの前の15分間は「食べきりタイム!」。残った料理をゆっくり味わう時間にしましょう。



各種イベントで配付し、普及啓発に努めています。



Copyright © 2012 Taisei Promotion, Inc.

図4

取組その3 「食べきりメニュー Menu」

小盛りの設定など食品ロスを減らす取組を行なっている飲食店を「彩の国エコぐるめ協力店」に登録し、ホームページやフェイスブックで紹介しています。(H27.10.30現在、78店舗)



お店では、食べられる分だけを注文するようにしましょう。



Copyright © 2012 Taisei Promotion, Inc.

図5

食堂ですけれども、ちょっと見にくいのですが、この中に「ミニカレー」と書いてあって、なるべく食べ残しをしないように小盛りのメニューでお好きなものを選べるという取組をしている協力店です。県の世論調査では、外食時に食品ロスを減らすために何が効果的か調べたところ、「量を選べる」という回答が多いという結果が出ていますので、私どもの取組は、実はまだまだ協力店舗数が少ないのですが、これからどんどん広げていきたいと思っています。

それから、今年のトピックスですが、一つはフードバンクの支援を行いました（図6）。埼玉県では災害のための防災備蓄品を備えております。当然、その中で、まだ消費期限はあるけれども、入れ替え時期に当たるものを、今年の6月にフードバンク埼玉という埼玉県で活動している団体に寄附いたしました。アルファ米などを職員と一緒に使ってフードバンクに提供しました。まだまだ県内でこういう活動はそれほど活発ではないので、一つの呼び水となるということを狙って、このような活動も行っております。

それから、もう一つ、啓発イベント（図7）ですけれども、先ほどお話しした県政世論調査では、食品ロスの認知度が、若い人ではかなり低いという結果が出ました。そこで、若い人向けに何かやれないかなということで考えて、埼玉県にある県立大学の御協力をいただき、大学の学園祭でイベントを行いました。これも先ほどフェイスブックのところで出てきましたが、県の職員が講義を行い、そこで学生さんを募っていろいろ企画をしました。例えば試食コーナーでは、賞味期限切れのお菓子とそうじゃないお菓子を食べ比べてもらってどうですかとか、あるいはフードドライブをしたり、いろんなイベントを行いました。学生さんたちは余り関心がなかったようですが、最後はいろんなイベントを企画して立派にやっていただいたので、すごくよい取組だったと思っております。以上で、私の説明を終わります。

○崎田 ありがとうございます。それでは、次にお隣の山口県からお越しの橋本さんにお話をいただきたいと思います。

○橋本 山口県の橋本です。昨日福井県に入りましたが、実はソースカツを食べたのですが、今日のことできちんと緊張してあまりのどを通りそうになかったので、御飯の小盛りをお願いしたら、見事に対応していただき、福井県、やるなと思いました。山口県もしっかりと食べきり、食品ロスの削減に取り組んでいますので、御紹介をさせていただきます。

丸で囲っているのは、山口県のゆるキャラ「ちょる

フードバンク活動を支援

食品ロス削減のため、フードバンクを活用することも有効である。また、県が災害備蓄品を提供することで、民間企業における取組みの呼び水となることを期待。

【災害備蓄品を寄贈】

賞味期限が近づいたため更新した、県の災害備蓄品をフードバンク埼玉（埼玉県労働者福祉協議会）に寄贈した。

（寄贈品一覧）

- ・アルファ米（約5500食）
- ・牛乳の缶詰（約1300食）
- ・乾パン（30食）
- ・飲料水（約4700本）



寄贈品



災害備蓄品を運搬する様子

図6

食品ロス削減に向けた啓発イベント

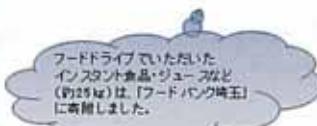
平成26年度に実施した県政世論調査によると、「食品ロス」について、その言葉も意味も知っている20歳代は46%で、県全体の平均60.4%を大きく下回った。このため、20歳代（大学生）を中心としたイベントとして、大学でイベントを実施した。

【イベントの概要】

日時：平成27年10月24日（土）、25日（日）10時～16時

場所：公立大学法人埼玉県立大学（埼玉県越谷市）

- 内容：
- ①試食コーナー（賞味期限が切ったお菓子）と（賞味期限まで数か月あるお菓子）の食べ比べ
 - ②うわなど啓発グッズの配布
 - ③フードドライブの実施



イベントブースの様子

Copyright © 埼玉県立大学 フードロス対策プロジェクト 図7



山口県PR本部長
「ちょるる」



橋本氏

る」と言います。ゆるキャラグランプリで2位になったことがあります。この「ちよるる」と一緒に御紹介していきたいと思います。

まず、山口県の状況ですけれども、山口県の食品ロスはこの円(図1)を足した約6万トンですけれども、それが毎年排出されているという計算になります。そのうち食べ残し、実際に満腹で食べられなかつたというのが2.3万トン、これをまた頑張って計算すると、6万人分の年間の食事量に相当します。

これを踏まえて、取組を紹介していきたいと思いますが、せっかくなので、山口県のおいしい食べ物もあわせて紹介したいと思っています(図2)。有名なもの二つと、地元のお勧め二つですが、まずお酒です。獺祭(だっさい)という、東京でもかなり品切れが続いているようですが、非常にやわらかい味で飲みやすいお酒になっています。もう一つは、下関のフグ。このフグの盛り方は、器のきれいさも楽しんでいただくように、すごい薄く切って並べます。お勧め二つは、まず維新の舞台の萩市から少し北のほうに外れますが、「須佐男命いか」がすごくおいしい。これお勧めです。あとは「外郎」ですね。名古屋の「ういろう」と違って、わらび粉を使っているので、わらびもちみたいな食感です。すごく安いのです。これは、県外の友達に買っていって外したことがないので、是非買っていただければと思います。

少し話はそれましたが、食品ロスの取組です。これには、山口県は、みんなの問題として、官民の枠を超えて取り組む考えでいます。平成23年に山口県食品ロス削減推進協議会(図3)を立ち上げ、消費者団体、製造や流通、小売などの事業者と行政が協力して「やまぐち食べきつちよる運動」を展開しています。

どういった取組を展開しているかと言いますと、まずは、「やまぐち食べきり協力店」(図4)ですが、いろいろな情報提供から有効活用までさまざまな取組項目を設けていて、そのうちの3項目以上に協力していただける店舗を県が「やまぐち食べきり協力店」として登録させていただいています。いろいろなス

山口県において食品ロスはどのくらい出ているのでしょうか?

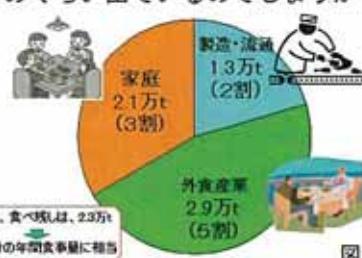


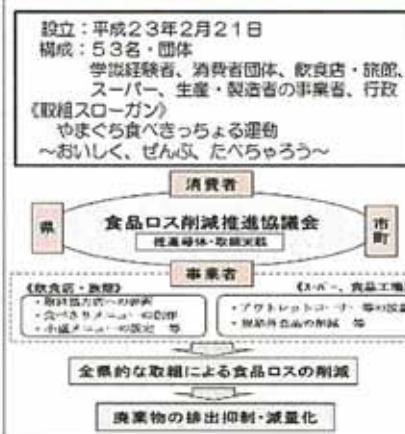
図1

まずは、食べ物で山口県を御紹介



図2

山口県食品ロス削減推進協議会



PRポスター 図3

やまぐち食べきり協力店登録制度



図4

テッカーやPR資材もお配りして、「やまぐち食べきり協力店」を積極的に活用していただけるような普及啓発をしているというところでございます。

また、「やまぐち食べきりキャンペーン」(図5)は、年末の忘年会シーズンに取り組んでいます。宴会でかなり食べ残しが多いというデータがありますので、キャンペー

取組の普及啓発等

◆ やまぐち食べきりキャンペーン



◆ やまぐち食べきりアイデアレシピ



◆ スタディ・ツアーチーム



◆ 環境省“グッドライフアワード”獲得



環境大臣優秀賞受賞
(H26.3.22)

図5

ーンで例えば締めの10分前に料理を食べきる時間を設けましょうといったことを呼びかけています。もう一つは、「スタディ・ツアーチーム」ですね。写真のケーキのお店では、消費期限間近のものをハーフ・スイーツという形で、2分の1の値段で売る取組をしています。そういったところを県民の方にツアーチームとして行っていただきて、いろいろ感じていただく。また、「やまぐち食べきりアイデアレシピ」というのを県民の方から募集して、それをホームページ等々で皆さんに紹介しています。この取組はかなり注目していただいている、例えば消費者団体さんからこういうのを考えたとか、出前講座などに行ったりしたときに教えていただくのですが、今はベジタブルプロス、野菜からとるだしがブームらしいです。

こういったことに山口県は取り組んでいて、平成26年には、環境省“グッドライフアワード”で、環境大臣優秀賞をいただきました。山口県はほめられて伸びるタイプですので、こういう賞もいただいたということでお、ますます頑張っていきたいと思っているところです。

以上で、簡単ではございましたけれども、取組事例を終わりたいと思います。

○崎田 ありがとうございます。それでは、次は大分県からお越しの村上さんにお話いただきます。よろしくお願ひいたします。

○村上 大分県の地球環境対策課の村上と申します。よろしくお願いします。大分県の取組の「おいしい大分食べきりキャンペーン」について御紹介させていただきたいと思います。

まず事業の目的についてです(図1)。外食の際や家庭では大量の食品ロスが発生していて、一部は肥料や飼料としてリサイクルされているものの、ほとんどは自治体の施設等で焼却処分をされているのが現状です。大切な食べ物を無駄なく食し、食品ロスを減らすため、県民の環境意識の醸成に努めるということを目的としています。

次に、取組内容についてです(図2)。事業者向けと県民向けの二つの取組を行っています。事業者向けとして、飲食店に対して「食べ



村上氏

事業の目的

現在、外食産業や家庭では大量の食品ロスが発生しており、一部は肥料や飼料としてリサイクルされているものの、ほとんどは自治体の施設等で焼却処分されている。

大切な食べ物を無駄なく食し、食品ロスを減らすため、県民の環境意識の醸成に努める。

図1

きりキャンペーンの協力店」として、外食の際に食べるべきための取組へ協力をしていただけるお店を募集しています。食品販売店に対しては、キャンペーンの応援店として、家庭において食材を食べるために、協力をしていただけるお店を募集しています。県民向けの取組としては、「おいしい大分」わが家のエコ料理コンテストを行って、食材の有効活用、エコな調理方法等に工夫のあるオリジナルレシピを募集しています。

次に、食べきりキャンペーンの協力店への依頼内容（図3）についてですが、ハーフサイズや小盛り等をメニューに設定、お客様の年齢構成、男女構成に応じたメニューの提供、廃棄食材の肥料等へのリサイクル、啓発物の掲示、その他の食べきりに有効な取組のいずれか一つ以上の協力をお願いしています。

次に、応援店への依頼内容（図4）ですが、食材の使い切りレシピや残り物アレンジレシピを紹介するコーナーの設置、少量パック、ばら売り、量り売りなどの充実、閉店間際の割引販売、その他の食べきりに有効な取組、いずれか一つ以上の協力をお願いしています。協力店と応援店には、こちらの写真にあるステッカーを配布しています。

次に、「おいしい大分」わが家のエコ料理コンテスト（図5）につ

取組内容

①事業者向け
 (1)飲食店(おいしい大分食べきりキャンペーン協力店)
 外食時においしく食べて、食べ残しを減らすための取り組みへ協力をしていくおけるお店を募集。
 (2)食品販売店(おいしい大分食べきりキャンペーン応援店)
 家庭において、食材をおいしく食べきってもらうために協力をしていくおけるお店を募集。

②県民向け
 「おいしい大分」わが家のエコ料理コンテスト
 食材の有効活用、エコな調理方法等に工夫のあるオリジナルレシピを募集。（平成25年度応募数 191点）

図2

**食べきりキャンペーン協力店
依頼内容**

おいしい大分食べきりキャンペーン協力店(飲食店)
 ①ハーフサイズや小盛り等をメニューに設定
 ②お客様の年齢構成、男女構成に応じたメニューの提供
 ③廃棄食材の肥料等へのリサイクル
 ④啓発物の掲示
 ⑤その他の食べきりに有効な取組
 以上①から⑤のいずれか1つ以上の協力

*協力店には「おいしい大分食べきりキャンペーン協力店」とわかる掲示物を配布する。

図3

**食べきりキャンペーン応援店
依頼内容**

おいしい大分食べきりキャンペーン応援店(食品販売店)
 ①食材使い切りレシピや残り物アレンジレシピ等を紹介するコーナーの設置
 ②少量パック、ばら売り、量り売りなどの充実
 ③閉店間際等の割引販売
 ④その他の食べきりに有効な取組
 以上の①から④のいずれか1つ以上の協力

応援店には「おいしい大分食べきりキャンペーン応援店」とわかる掲示物を配布する。

図4

**“おいしい大分”
わが家のエコ料理コンテスト**

募集対象 崇内在住の方、通勤通学している方
 募集レシピの内容
 ア 「家庭の夕食」を対象とする2品以上のエコ料理
 イ 材料の取扱い(食材の有効活用)や調理方法(エネルギー消費)等に工夫のあるオリジナルで未発表のレシピ
 ウ 材料費(4人分の食料費(米、調味料を除く))として1,200円以内
 エ 1時間以内に調理、盛り付けが完了するレシピ
 オ 誰でも作ることができる普及可能なレシピ
 (電子レンジ・オーブンの使用可)

図5

審査基準

評価項目	評価内容
①アイデア	エコ料理として独創性があるか。
②環境	材料を無駄なく有効に活用しているか、エネルギー消費を抑える調理方法に工夫があるか。
③盛り付け	見た目に美しく、おいしそうか。
④栄養	栄養バランスがとれているか。
⑤普及	誰もが簡単に調理できるか。

図6

**おいしい大分～わが家のエコ料理コンテスト
平成26年度 最優秀賞レシピ**

エコ料理の名前
 まるごと食べっちゃおーっ魚

○魚の三色そぼろ丼 ○紅白なます ○味噌汁

エコのポイント

- 材料の皮は剥かず、そのまま使用する
- 紅白なますのしづく汁は人参の煮物を煮る時に一緒に入れて食べる

エコ料理の作り方

魚の三色そぼろ丼

- 魚は焼き、こぼうは電子レンジ600wで1分加熱する。両者をフードプロセッサーで細かくし、砂糖大さじ1、しょうが1片、塩・しょうゆを適宜加えて甘辛い「そぼろ」を作る。あれば柚子こしょうを少々加える。
- 鍋4個に砂糖大さじ1～1.5、うすくちしょうゆ小さじ1、塩小さじ1/4を加え、炒り卵を作る。
- シリコンスチーマーに手切りした人参、酒大さじ1、塩小さじ1.2、砂糖大さじ1～1.5、なますのぬちみの汁を加え、600wのレンジで2分加熱する。
- こぼんをよそった方に(1)～(3)を各分盛り中央に刻んだねぎをのせる。
- の甘煮
- 大根、人参ともに手切りにして、塩小さじ1/4で塩もみをする。
- (しづく汁は人参の甘煮に加える)
- かぼすほん酢大さじ1、砂糖大さじ2/3を混ぜて和える。上にねぎを散らす。
- 味噌汁
- 和風だしの素小さじ1(あれば昆布茶小さじ1/4を加えて)で作っただしと、にんじん、あく抜きしたささがきごぼうを加えた後、味噌を適宜加える。最後にねぎを散らす。

●使用器具
 フードプロセッサー、手切りスライサー、電子レンジ、シリコンスチーマー

材料と分量(4人分)

魚の三色そぼろ	(90g)	(90g)	(90g)	(90g)	(90g)	(90g)
・魚肉 100g (骨含めて)	・野菜 4種					
・さば、あじ、さんま等	・砂糖 大さじ1～1.5					
・ごぼう 60g	・うすくちしょうゆ 小さじ1					
・砂糖 大さじ1	・塩 小さじ1/4					
・しょうが 1片	・あわびすほん酢 大さじ1					
・(すり下ろすか、みじん切)	・みじん切 (人参の甘煮)					
・(野菜)	・野菜 100g					
・・・	・野菜 大さじ1					
・・・	・味噌 大さじ1/2					
・・・	・なますのぬちみ汁	・なますのぬちみ汁	・なますのぬちみ汁	・なますのぬちみ汁	・なますのぬちみ汁	・なますのぬちみ汁
・・・	・ねぎ 1/2本					

材料費(水を抜く)の金額

700円	調理時間	熱源
700円	50分	H 図7

いてです。募集対象は、県内在住の方、通勤通学している方としています。募集レシピの内容としては、家庭の夕食を対象とする2品以上のエコ料理、材料の取り扱いや調理方法に工夫のあるオリジナルで未発表のレシピ、材料費は4人分の食材費として1,200円以上、1時間以内に調理、盛りつけが完了するレシピ、誰でもつくることができる普及可能なレシピとしています。

審査基準（図6）については、次の5つの評価項目を設けています。エコ料理として独創性があるか、材料を無駄なく有効に活用しているか、エネルギー消費を抑える調理方法に工夫があるか、見た目に美しく、おいしそうか、栄養バランスがとれているか、誰もが簡単に調理できるか、以上の内容を評価内容としています。昨年度は応募が191件あります、こちら（図7）が最優秀賞のレシピになっています。ポイントとしては、材料の皮をむかげにそのまま使用しているということと、絞り汁が出たときに、煮物を煮るときに一緒に入れて食べきっているという点がポイントとなっています。

このように、食材を使い切るための工夫や効率的な調理方法など、エコクッキングを普及していくことで、環境に優しいエコライフへの関心を高めるきっかけづくりになればという思いで事業に取り組んでいます。右側の写真は（図8）、以前、大分県で作成しました「四季折々のエコライフ」という冊子です。その中で、エコ食ライフ「エコ・クッキングのポイント」を紹介しています（図9）。このように、県民に対して啓発活動を行っているところです。

以上が大分県の取組になります。ありがとうございました。

○崎田 ありがとうございます。協力店を広げ、そしてメニューまで紹介したり、本当にこの分野は取り組むことがたくさんあるなというふうに思いながら伺っておりました。それでは、次に御発表いただくのは、

エコクッキングからエコライフへ

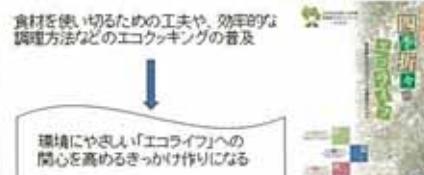


図8

エコ食ライフ

～エコ・クッキングをしよう～



買い物

食材は使い切れる量だけ買おう



買わない量を減らそう

必要な分だけ、約50%を減らす簡単な方法

お買い得商品に挑戦せよ

毎日の食事を減らす

毎日には、自宅にたくさん残れることが多いので、お手軽に減らすことができます。

マイバックを持ってお買い物をこう！

レジ袋は断り

大分県産の野菜を買おう（地域活性化）

大分県の農林水産省による「地域活性化」

まずは、地元の農家が野菜を販売してくれます。

何より、おいしい野菜を安く、美味しい

調理

ガスや電気を効率よく使おう



メニューを工夫して、食材を使い切ろう



一日の野菜をリフォームしよう



お野菜に環境に優しい使い方



アクリルタワシで洗濯いらす



図9

今回、市として唯一お越しの長野県松本市の土屋さんに、お話をいただきます。

○土屋 ただいま御紹介いただきました、長野県松本市の環境政策課、土屋雄一と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、松本市における食品ロス削減の取組について御紹介させていただきます。



土屋氏 知名度が上がってきたところで、お店だけの取組ではなくて、家庭での取組も30・10運動を発展させようということで、今は「残さず食べよう」の頭に「おそらく」というのと「おうちで」という枕ことばをつけて、今、飲食店と家庭の取組をしております。

まず、「おそらく残さず食べよう！30・10運動」（図2）ですけれど、これは先程から出ていますが、宴会などの乾杯後に30分席を立たないでまず出てくる料理を食べましょう、そしてお開きの前の10分間は自分の席に戻って残ったものを食べましょう、という取組です。もともとは、これ、うちの市長がいろんな団体と宴会をすると、乾杯と言った後、すぐ市長の前に皆さん列に並んでお酒について話をすると、それが繰り返されると、気がつくともう終わっている時間になってしまって、全然物が食べられないので、こういう仕組みは何とかならないかねというところがきっかけになっています。松本市役所では、もともと乾杯の後の30分は座って食べようというような暗黙のルールがあったのですが、これは市役所内のルールでしたので、ここに終わったときの10分も加えて、30・10運動で全市的な展開をしてみようということがこの運動の取組になったきっかけでございます。

実際にいろんなことをやっていますけれど（図3）、ポケットティッシュあるいはコースター、ポスター、チラシなどを用意して、商工会議所などを通じて、市内の宿泊業や飲食業の皆さんに呼びかけを行い、大体、今現在200店弱くらいのお店が何らかの形で協力をしていただいております。それから、昨年度からは、新たな取組ですけれども、プラチナメニュー（図4）というものに取り組んでおります。普通の宴会料理は、若い人が中心だと



ちょうどいいのかもしれません、ある程度の年配の方には量が多く過ぎます。そこで、品数を少なくすることが、お店にとってそれで利益が少なくなるといけないので、ちょっといい材料を使って、総額と同じにしていいものを食べようという取組を始めました。これは実際にやっている店は6店と、ちょっとまだ反応が鈍いのですが、今後、持ち帰り運動とか、小盛りメニューとか、いろんなことを検討する中で、協力店として多角的に取り組んでいただくような方向で進めていきたいと考えております。

次に、「おうちで残さず食べよう！30・10運動」（図5）ですが、家庭での取組を進めるに当たり、私たちは30・10運動というキーワードを使いたかったということがあります。だけど、この30と10をどういう位置づけにしようかということで、では30は冷蔵庫クリーンアップデータとして月末の30日に、冷蔵庫にあるものをみんな食べちゃおう、そういう整理をする日に位置づけ、それから10日はもったいないクッキングということで、今まで捨てていた野菜の茎や皮などを使って調理をしましょうという日にして、今進めています。

ちなみに、毎月19日は、「家族団らん手づくり料理の日」というのを松本市は昔からやっておりまして、食育の関係ですけれども、そうすると大体10日に一遍、食べ物で考えてもらえる日ができるということで、ちょうどいいということで、この「おうちで残さず食べよう！30・10運動」を始めました。これについては、冷蔵庫に貼るマグネット、御家庭で一家の主婦が一番よく見るのは、やっぱり冷蔵庫のところのメモだと思いますけど、そのメモをとめておくマグネットに啓発の言葉を入れて、イベント等で配ってやっています。また、食育に関しては、庁内で関係課がいろいろあるのですが、そこ連携して今やっていますので、それぞれのイベント等においても、周知を図っているところでございます（図6）。

あわせて、家庭での取組の一つ、環境教育にもなりますが、大きな取組の一つとして、園児を対象とした環境教育が上げられます。松本市には、松本市立の保育園、幼稚園が全部で46園ありますが、全園の年長組の子供さんを対象に環境教育（図7）を行っております。これは平成24年からやっているのですが、キーワードとしては、参加型でとにかく楽しくということで、園児ですので、もう言葉とかじゃなくて、わいわいがやがや参加してもらうということで、パワーポイントにいろんな絵とかクイズを出して、それに答えてもらうというやり方で今やっています。テーマは、「捨てたものはどうなる？」「食べ残したものはどうなる？」、この二つですが、本当に子供たちの反応はすごくて、いつもこ

ちらがびっくりしてしまいます。実際に行っている映像につきましては、松本市のホームページの中で公開しておりますので、興味があったら是非見ていただければと思います。

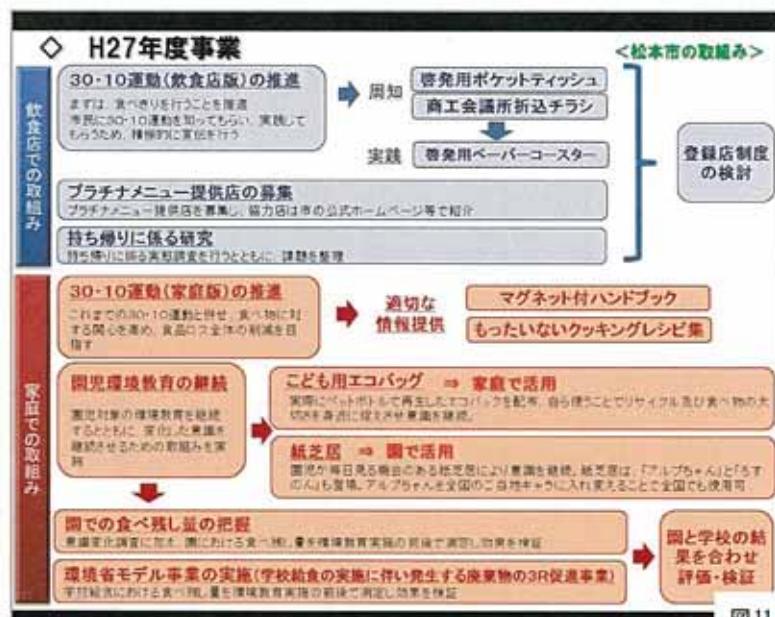
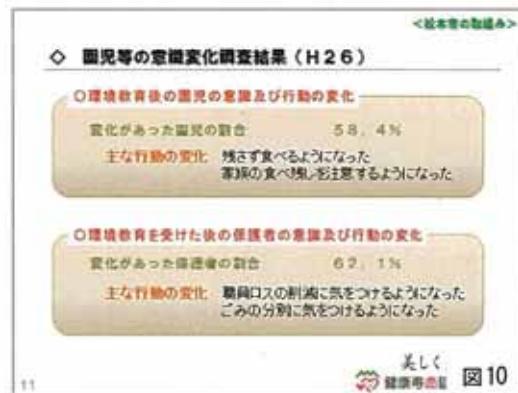
併せて、環境教育で感じたりサイクルの心を継続してもらうために、ペットボトルから再生された子供用のエコバッグを作成して（図8）、この環境教育を受けた子供さんたちみんなにプレゼントしております。環境教育は、うちは市内46園あって、これを2名の職員で回っているんですけど、なかなかうちも人手不足でそんなに手が回りませんので、1園に年1回しかできません。ですので、せっかく芽生えたもったいない心が途切れないように何かできないかということで、保育園の先生がふだん読み聞かせをしていただくように紙芝居をつくりました

（図9）。「みんなでおいしくいただきます！～おさらピカピカだいさくせん！！～」ということで、園児が苦手な食べ物を克服して食べ残しを減らすという物語です。この紙芝居は、絵、文、脚本のすべてをうちの若手の保育士さん、それからうちの課の若い女性の職員、あわせて5人が力を合わせてすべて手づくりです。またこれも市のホームページあるいは消費者庁のホームページで公開しておりますので、是非見ていただいて、また自由にダウンロードして使っていただいても結構ですので、参考にしていただければありがたいと思います。

こういった園児の環境教育を行っている中で、実はアンケートをとっているのですが、結構、意外な効果が現れています。環境教育を行った2ヵ月後にアンケートを園児の親の方に出して、その結果を集計しますと（図10）、まず園児の意識が変化したという割合が58.4%あって、例えば残さなくなったとか、あるいは家族が食べ残しすることに注意をするようになったとか、そういった行動の変化が出ています。また、園児ばかりでなく、お家に帰った子供たちが親のほうに今日あった出来事をお話しくるということがきっかけで、保護者の人も62.1%が気をつけるようになったというデータが出ています。具体的には、食品ロスの削減に気をつけるようになったとか、ごみの分別に気をつけるようになったとか、そういった行動の変化が出ておりまして、こういったことを体験することで、結構意識が変わっていくなと改めて感じております。

これは毎年やっていまして、経年変化も見ていますけれども、最初の年より次の年のほうが若干数字が高くなっていますので、やればやるほどだんだんよくなってくると感じております。

こういった取組を30・10運動で行っていますが、平成27年度につきましては（図11）、飲食店での取組では、持ち帰りに係る研究を行って、総合的な登録店制度を築きたいと思っております。また、



家庭での取組としては、今、松本大学と連携して学生と一緒にもつたいないクッキングのレシピ集を作っていて、こういったものを市民にお知らせしていきたいと考えています。また、それ以外にも環境教育の効果を具体的に測定するために、保育園での食べ残し量の調査や、環境省のモデル事業に採択していただきましたので、小学校における環境教育をした後の食べ残し量の変化の調査を今実施しております。

今後も、市としては、こういった食品ロスの削減につきまして、知恵を絞りながら多角的に取り組んでいきたいと思っております。私からは以上でございます。ありがとうございました。

○崎田 ありがとうございます。松本市さんは、30・10運動をこのところ発信を非常に力強くやっていただいているが、スタートは、市長さんの宴会のときのずらっと並ぶ列の方があまりお食事をされないということが課題になったということで、これは日本中の市とか県とか、あるいは企業とか、どこでもそうかなという感じがしますので、是非皆さんで広げていければと思います。ありがとうございます。

それでは、お待たせいたしましたが、こちらの主催県ということで、福井県さんも本当にこの分野、熱心に取り組んでおられ、「おいしいふくい食べきり運動」をずっとやってこられました。大石さんからお話しいただければと思います。よろしくお願ひします。

○大石 皆様、こんにちは。福井県安全環境部循環社会推進課で、食べきり運動を担当しております大石と申します。私から、福井県で展開しています「おいしいふくい食べきり運動」について御紹介させていただきたいと思います。

まずは、福井県の食品ロスの現状を簡単に説明させていただきます。

平成27年1月に福井市内で実施いたしました家庭系可燃ごみの組成調査によると、食品廃棄物の生ごみの割合は、全体の38%、その生ごみのうちの食品ロスの割合は24.7%でした(図1)。平成21年度にも同じような調査を行っているのですが、そのときと比べますと、生ごみの割合は約8%減少、また食品ロスの割合についても0.7%減少しております。このように、

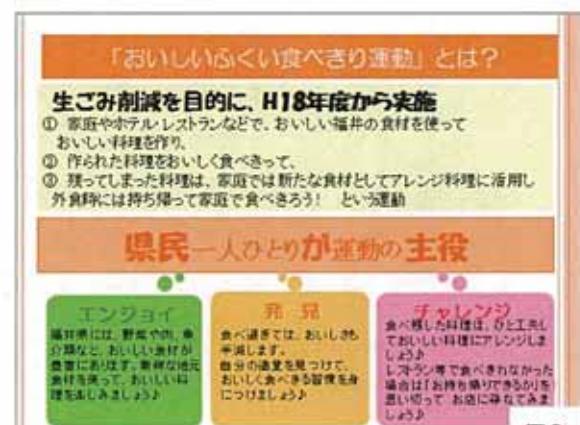
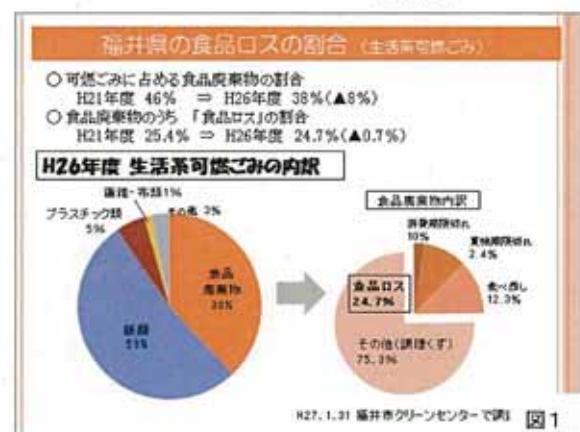
福井県の食品ロスは、「おいしいふくい食べきり運動」の拡大とともに、少しずつですが減少している状況にあると言えます。

「おいしいふくい食べきり運動」(図2)というのは、平成18年度から福井県が全国に先駆けて生ごみ削減のための始めた運動です。家庭やホテル、レストランなどでおいしい福井の食材を使って料理を作りまして、作られた料理をおいしく食べきって、もし残ってしまった場合には、家庭では新たなアレンジ料理、外食時には持ち帰って家庭で食べきろうという運動です。この運動を実施していただきますのは、県民の皆さん一人ひとりです。ですから、県民が主役の運動と言えます。

それでは、この運動の主役となります県民の皆さんにどのようにして運動に取り組んでいただいたのか、その進め方としては大きく二つあります。まず一つは、県民の皆さんに具体的にどのような活動をしていただきたいかということを提示させていただきました。そして、もう一つは、活動を支えますサポーターからの提案でございま



大石氏



す。まず、県民の皆様一人ひとりが食品ロス削減のために具体的に何をすればいいかということを、家庭、外食時、宴会時の三つのシーンに分けまして提示させていただきました。こちら（図3）は、家庭での家庭向けの食べきり運動実践チェック表でございます。そのほかに外食時、また宴会時に気をつけることなどを取りまとめた「宴会5箇条」（図4）ということで、わかりやすく食べきり運動についての提案をさせていただきました。

次に、県民の食べきり運動をサポートするサポートナーを増やしていきました（図5）。まずは、食べきり運動協力店です。外食時の食べきりを進めるために、飲食店やホテルに対して食べ残しが出ないメニュー設定、お持ち帰りパックの提供など、お客様においしく食べきって、食べ残しが出ない取組について協力を依頼しまして、登録をさせていただいています。また、食べきり家庭応援店では、家庭の食べきりを進めるために、スーパーなどの食品小売店で食べきりレシピの提供や少量パック、はかり売りなどの充実など、お客様が家庭で食品ロスを出さないようにする手助けをする取組への御協力を依頼いたしまして登録させていただいています。また、県が作成しましたレシピは、クックパッドの消費者庁のページに掲載されています。また、パネルの展示のコーナーにもレシピを置いておりますので、是非皆さん持ち帰っていただいて、御家庭で実践していただきたいと思っています。

今年度からは、そのような日常的な活動に加えまして、重点的に県民に食べきり運動をPRしていただけます、「おいしいふくい食べきりの日」の活動も実践させていただいております（図6）。飲食店では、食べきりの日にはすべて注文したものを食べきった方にドリンクなどのサービスをするという店舗もありますし、

また食品小売店では食べきり食材PRコーナーを設置していただけます。写真のほうは、福井県民生活協同組合ハーツ志比口店での様子でございま



おいしいふくい食べきり運動
キャラクター「のっこさん」

「おいしいふくい食べきり運動」の進め方

具体的に何をすればいいのかをシーンごとに提示

家庭 食品ロス削減のために…家庭でできること

**～おいしいふくい食べきり運動～
実践チェック表**

- 買い物に出かける前に、冷蔵庫を確認しましょう。
- はかり売り、量り売りを利用して必要な分だけ購入しましょう。
- 過ご1回は「冷蔵庫一掃デー」（消費期限が近い食材を使い切る日）を設定しましょう。
- 自分が食べきれる量（適量）を見つけましょう。
- 家族の予定を把握し、必要分だけ料理を作りましょう。
- いつも捨てていた部分を工夫して、食材を使い切りましょう。
- 使い切り、食べきりを意識して食材の保存方法を工夫しましょう。

図3

「おいしいふくい食べきり運動」の進め方

具体的に何をすればいいのかをシーンごとに提示

外食店 食べきれないと思ったときは「小頃りできますか?」、食べられない食材があるときは、「〇〇をいれないともらえますか?」とお店の方に聞いてみましょう。

宴会5箇条

宴会や立食パーティーなどは食べ残しが多くなります。
食べ残しを減らし、宴会を楽しく過ごすために食べきりを実践しませんか？

幹事さん 必見!!

- ① 出席者の性別や年齢などを店に伝え、選択注文に心がけましょう。
- ② 飲食の会では、開始30分、終了10分など、席を立たずにしっかりと食べる時間を設けましょう。
- ③ 料理がたくさん残っているテーブルから、少ないテーブルへ料理を分けましょう。
- ④ 幹事さんや団員の方は、宴会中に「食べ残しのないように！」の声かけをしましょう。
- ⑤ 食中毒の危険のない料理を持ち帰り用として折り詰めて注文するなど、食べ残しがない注文の工夫をしましょう。

図4

「おいしいふくい食べきり運動」のサポーター

県民の食べきり活動をサポートする店舗を登録

●食べきり運動協力店（1,047店）

○ 飲食店やホテルなどハーフサイズや小盛りなど食べ残しができないメニュー設定や、お持ち帰りパックの提供など、お客様においしく食べきって、なつかつ、食べ残しが出ない取組みについて協力

●食べきり家庭応援店（161店）

○ スーパーなどの食品販売店や、少量パック、はかり売りや食べきりレシピコーナーなど、お客様が家庭で食品ロスを出さないよう手助けする取組みに協力

図5

「おいしいふくい食べきり運動」のサポーター

日常的な活動に加えて、重点的に県民にPRする「おいしいふくい食べきりの日」をH27から実施

●食べきり運動協力店

「食べきりの日」に注文したものをすべて食べきった方にお店からサービス

●ドリンク、割引券、ポイント割引

●食べきり家庭応援店

「食べきりの日」に啓発を行い、食べきり運動を応援

福井県民生活
協同組合
ハーツ
志比口店

食べきり食材
PRコーナー例

図6

す。使い切りのアイデアレシピとともに、カット野菜を集めた食材のコーナーを設置していただきました。

また、宴会時の食べきりを進めようと、12月から1月の宴会シーズンの開始前には、福井県連合婦人会の皆さんとともに、商工会議所や企業等を訪問いたしまして、宴会5箇条の呼びかけをしています（図7）。さらに、ホテルと協力いたしまして、パーティーでの食べ残しの実態調査を行いまして、その結果をもとに食べ残しを減らす「のっこさんメニュー」の開発を行いました。簡単に1人ずつ取り分けられまして、野菜と肉と一緒に食べられるような盛りつけの工夫などがされたメニューでございます。

そして、子供たちや20代、30代の若い世代に特に啓発していきたいと、福井県連合婦人会の皆さんと連携いたしまして、保育園で食べきり寸劇や紙芝居を実施しています（図8）。子供たちが園で学んだことを家庭で御両親に話していただけるように、チラシやアンケートを持ち帰っていただき、家庭全体で取り組むようにしております。また、先ほど皆さんにも参加していただきましたが、食べきり運動の歌のほうもダンスをつくりまして、楽しみながら学べるように婦人会の皆さんのがんばっておりまして、園児の皆さんを初め、保育園の皆さんにも非常に学習会のほうは好評を得ております。

このように、婦人会、飲食店、食品小売店の大きな御協力を得ながら、県民の皆さん一人ひとりが今日からすぐに実践でき、「のっこさん」のように、みんなが笑顔になれる「おいしいふくい食べきり運動」として福井県では取組を進めていっております。

最後に、こちらの方は御提案になるのですが、私の前に四つの自治体の皆さんに地域の特色を生かした食べきり運動についてお話しいただきました。本日、お集まりの自治体のほかにも、客席に来ておられる自治体の方の中にも食べきり運動を実践されている、またはこれから実践したいと思われている自治体があると思います。その自治体の皆さんと、このような情報交換させていただきまして、お互いの課題などを話し合うネットワーク（図9）をつくっていくことで、自治体の取組はもとより、食品販売店や農林水産業者などの関係団体の皆さんにも活動が広がり、この食べきり運動が日本中に拡大していくのではないかと思います。このような食べきりサミットを開催させていただきまして、今回1回限りでは非常にもったいないと思いますので、今後も同じ食べきり運動を実施する自治体として、是非手を携えまして、食べきり運動を盛り上げていきたいと思っています。是非御協力をお願いしたいと思います。

○崎田 ありがとうございます。今、福井県の大石さんから、今日の食べきりサミットを1回で終わらせるこ

企業やホテルの協力

宴会シーズンに企業に「食べきり運動」の協力依頼

県連合婦人会とともに、商工会議所、企業を訪問し、宴会での食べきりを呼びかけ

ホテルとの協力で「のっこさんメニュー」を公表

ホテル等のパーティーで残されるメニューの実態を調査し、その分析をもとに「のっこさんメニュー」を開発、公表

『のっこさんメニューのポイント』

- 1 料理の構成
- 2 料理の見せ方
- 3 料理の出し方
- 4 お客様の喜好
- 5 食べやすさ
- 6 注文の取り方、始め方

写真はイメージ 図7

子どもや若い世代への普及啓発

県連合婦人会と連携し、保育園で寸劇や紙芝居を実施

- ・「食べきること」の大切さを伝える
- ・「食べきり運動のうた」にダンスを作り、子供たちが楽しみながら学べるように工夫
- ・子どもから保護者へと「食べきり運動」を知ってもらい、家族で取り組む

図8

各自治体の食べきり運動拡大のために

- 地域の特色を生かした「食べきり運動」の取組みをもっと知りたい
- どんな課題や効果があるのか情報交換したい
- 食品販売店、消費者、農林水産業者など、より多くのみなさんとともに「食べきり運動」を拡大していきたい

図9

となく、継続していろいろな自治体の情報交換を続けていくようなネットワークを作っていくみたいという御提案がありました。大変心強く伺いました。ありがとうございます。

この後、せっかく今皆さんから現状を伺ったばかりですので、今のいろいろな取組をさらに進めるためには何が必要かというあたりをじっくり意見交換させていただきたいと思います。そのあと、このネットワークの呼びかけに関して、ほかの自治体の皆さんにも是非コメントをいただければありがたいと思っております。質問をされたい方もいらっしゃると思いますので、少し心の準備をしていただければなというふうに思います。よろしくお願ひします。

それでは、パネリストの6の方に、食品ロス削減というこの運動をさらに進めるために何が必要だと今お感じになっておられるか、そこをピボットでお話しいただければありがたいなと思います。ここに座っていただいている順にお話しいただいこうと思います。環境省の田中さんからお話しいただけますか。

○田中 国においては、例えば農水省と協力して、フードチェーン全体の中の商慣行の改善のような、国としてやらなければいけないような取組も、もちろんしっかりとやっていきたいとは思っていますが、こういった自治体の皆さんと協力してやっていくという意味では、先ほど御紹介させていただきましたが、火曜日から環境省のウェブサイトに公開させていただきます3R行動見える化ツールを作りました。地域の事業者あるいは消費者の皆さんには、本ツールを御利用いただきながら、石油、水、最終処分量、温室効果ガスがどれだけ減るのか数値で表せるような取組をどんどん実践していただきて、食品ロスの削減を地域レベルで進めたいだきたいというのが一つお願ひです。

それから、今年の4月に学校給食から発生する食品ロスの調査結果を公表させていただきましたが、小・中学校から出てくる食品廃棄物は、児童生徒1人当たり年間17キログラム、これは、御飯を1人250グラム食べるとすると68回分という結構な量になります。自分の学校から出てくるごみ、食品残渣とか食べ残しを学校で調べていただくような取組も地域で促進していただきて、食品ロスを学校で学んでいただくと、学校での食品のリサイクル率は今60%ぐらいという非常に高いレベルですが、こういう取組も進み、環境にも、教育的にもいいのではないかなと思います。

○崎田 ありがとうございます。それでは、大石さん、お願ひします。

○大石 今、連合婦人会さんと保育園を回らせていただいているのですが、6月に食育関係の推進全国大会が墨田区であり、そちらでも食品ロスのお話をさせていただきました。食育の場でも食品ロスを考える機会がございますので、是非、小学校ですとか中学校にも、この食べきり運動をつなげていって、教育の場からも食べきりを進めていけたらなというふうに今感じているところです。

○崎田 ありがとうございます。子供たちの教育の場からもということで、先ほどの田中さんのお話とつながるところがあります。ありがとうございます。それでは、埼玉県の豊田さんのほうからお願ひします。

○豊田 私どものほうは、本当にまだ取組が始まつたばかりでございますので、今いかに食品ロスというものが大変な問題であるかということを知ってもらうということが最初の課題と思っています。行動を起こしてもらうためには、知ってもらって認知度を高めていかなければならないわけですが、それには、いかにわかりやすく伝えていくかが一番大事だと思います。先ほど環境省さんからお話がありました見える化ツールは非常にいいツールになると思います。さらにこれを充実していただきて、日ごろの行動がどれだけ食品ロスを生んでいるのか、これを変えるとどれだけ食品ロスが減るのかをわかりやすく伝えられるようになればいいかなと思っています。期待しております。

○崎田 ありがとうございます。効果を見る化することで、みんなに説得力がある形で伝えられるというお話をしました。それでは、次は山口県の橋本さんから伺いたいと思います。

○橋本 長年取り組んでいると同じような取組になりがちですが、その中で、例えばいろいろな事例を集め

た事例集であるとか、他県の取組の先進的なものとか、そういうものを常に共有していけば、活性化にもつながると思っていて、そういうことが今後必要になってくるのかなと考えています。

○崎田 ありがとうございます。事例の共有の大しさというお話ですが、先ほどのネットワークの御提案ともぴったりという感じもしますので、後ほどまたコメントいただければと思います。では、大分県の村上さん、お願ひします。

○村上 大分県では食べきりキャンペーンの協力店と応援店を、今募集しているのですが、登録数が最近伸び悩んでいるということと、エコ料理コンテストでは学生さんからの応募が多くなっていて、一般の県民の方の応募が少ないというのが少し課題となっていますので、もっと効果的な啓発活動を行っていくことが必要かなど今思っています。

○崎田 ありがとうございます。協力店をきちんと効果的につなげ、広げていくことが大事ということですね。それでは、松本市の土屋さん、お願ひします。

○土屋 先ほどのパワーポイントの最後のところにちょっと書いてあったのですが、私どもでは持ち帰りに関する研究を今やっております。ここにちょっと難しい問題があります。持ち帰ったときの食中毒の発生とかが考えられますので、尻込みする事業者がいます。そういうところを事業者の人たちとちっと話し合っていくことが必要と思っています。そういうところを整理し、できることに関してはやってもらい、行政としてはそこを応援していくような形で、何かうまい取組と言いますか、制度ができるのかなということを考えています。それを整理した上で登録店制度を作っていくみたいなど考えています。

もう1点は、市民にいろいろなことを提供するだけではなく、体験してもらうことで理解が深まっていくと感じておりますので、知恵を出して、どんなことでもいいから、いろんな形でやっていきたいと考えています。そういう点では、今日いろいろな意見、事例を聞きましたので、今後のネットワークにもつながるかもしれません、少しこういうことを機会にもっともっと活動を広げていきたいと考えております。

○崎田 ありがとうございます。今、伺ながら気がついてきたことがあるのですが、食品ロス削減というのは、いろいろな方々と連携して取り組んだり、いろいろな立場の方が取り組むということで、伺っていると、あれもある、これもあると思いがちです。これは、お店の方がやってくださることと家庭でやれること、そしてお店の方と家庭が協力しながらやれることと、かなり交通整理ができるのではないかというふうに感じます。

それで、今、そういう視点から考えると、きちんと新しい情報を伝えるために見える化ツール、効果を定量化することも非常に大事だというお話と、学校の児童・生徒とか市民の方にしっかりと伝えていくことの大しさ、それと協力店をどうやって広げるかという、この三つぐらいのが、これから大事にしたいということで出てきました。

この三つに関して、少し意見を伺いたいと思うのですが、まず効果を定量化してきちんとお話をしていくようにということで、先ほど見える化ツールはなかなかいいですねというお話がありましたが、初めて聞く方にはびんとこないと思いますので、田中さん、もう一度、お話しいただけますか。

○田中 火曜日になればウェブサイトからダウンロードできる紹介資料は、こちらの展示会場でも配っておりますので、是非お帰りの際に見ていただければと思いますが、まず最初にどういう行動を選びますかというところで、クリックするボタンが6択ございます。事業者の行動として、在庫管理による需要予測によって売れ残りを減らそうという取組、あるいは賞味期限が迫った商品を値下げして販売しようとかスーパーなどでお弁当に加工したり惣菜にして販売したりして売れ残りを減らそうという取組、また消費者の行動として、既製の量で買うのではなくて、スーパーの量り売り、ばら売りを通じて、適量を買う行動に変えることによって食べ残しをなくす取組、あるいは消費期限と賞味期限の違いが非常に重要で、この日までに食べな

きやいけないという消費期限ではなくて、この時期までがおいしいよという賞味期限であればまだまだ食べられるので、そういった賞味期限をよく理解した上で売れ残りを減らしていくという取組、それから見かけが悪くて流通ルートに乗らないとか、運んでいる途中にちょっと箱が傷ついて中身は食べられるのに正規の値段で売れないというようなものをNGOと協力してフードバンクで活用して減らすという取組、このような6つの食品廃棄物を減らす取組の中から自分の取組を選んでいただきます。

次にその食品が米、野菜、豚肉、牛肉、パンなど、どんな食品なのかを16品目から選んでいただきます。次に、自分で量っていただかないといけないのですが、そのキログラムの数字を入れてもらうと、それで、例えば1カ月努力すると何キログラム減るということが自動計算によって出ます。その削減によって、最終処分量が何キログラム減るか、あるいは石油がどれだけ減るか、水の利用がどれだけ減るか、CO₂がどれだけ減るかを自動計算し、きれいなグラフにもしてくれるというツールでございます。

○崎田 それが来週の火曜日の午後にホームページで公開されるわけですね。1人の力は本当に小さいかもしれないけれども、みんなで取り組めば大きくなると言われますが、実際に定量化して、このぐらいになるよと言つていただければ、みんなもやろうよねと元気づくのではないかと思って、是非そういうものを開発してくださいと、実はかなり長い間、お願ひをし続けておりました。ありがとうございます。今、そういうのも徐々にそろえてきているというお話がありました。

あと二つ質問したいのですが、先ほどやはり学校とか幼稚園などで子供たちに伝えると、親御さんにも伝えるということで、教育現場で取り組むことの大ささについて話が出ましたけれども、そのような広げ方、声のかけ方、あるいは学校とか市民の巻き込み方で、こういうふうに声をかけたらみんながやってくださったといいいい事例か何かがあれば、是非教えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。松本市さん、よろしくお願ひします。

○土屋 この辺はなかなか難しいところもありますが、今、松本市ではいろんな市民の人たちや、食育の関係でいろんな関係団体の人たちも連携しており、また、健康づくり推進委員だとか食生活改善推進員の人たちとか、松本大学の人たちとも連携していますし、あるいは消費者の会など、いろんな人たちとの連携をしていて、本当にいろんなところにまずは声をかけていくということが先かなと思います。

それと、事業者の方にも声をかけていかなければいけないと思いまして、松本市内の旅館とか飲食業で構成される旅飲食団体協議会の会長さんとざっくばらんにいろんなことを相談しながら今やっておりまして、協力店もここ数年でかなり増えたのですが、そこを通じていろいろ広めていった結果、増えてきました。

また、いろんな課題等もそちらのほうから伺います。その中で事業者の人たちも行政と話し合いをしたいという意見もありました。私どもも、そういったところから少しいろんな方向を目指していきたいと思っております。

○崎田 ありがとうございます。今松本市さんからは、市民の巻き込みだけではなくて、事業者までお話を広げていただきましてありがとうございます。ほかに、こういうふうに声をかけたらうまくいきましたといいいい事例をいただければと思います。大石さん、お願ひします。

○大石 本県では健康福祉センターで食品衛生の講習会等がございますので、そのように飲食店がたくさん集まる機会に、こういった取組がありますよということを飲食店の方に知っていただき、御協力のお声がけをさせていただいて、増えているという状況でございます。

○崎田 ありがとうございます。今、飲食店のお話が出ましたけれども、先ほど講演をしていただきましたユニーの百瀬さんのように、スーパーさんなども熱心にやつていただくとすごくいいなという感じがするのですが、スーパーとか小売店さんとか、そういうところとのつながり方ではいかがでしょうか。山口県の橋本さん、お願ひいたします。

○橋本 先ほど紹介しましたけれども、スタディ・ツアーや中でスーパーさんの取組を県民の皆さんに知っていただくといった取組をしております。

○崎田 ありがとうございます。県民の皆さん方がスタディ・ツアーや環境学習をスーパーの現場でやらせていただくというところで連携をされているということですね。ありがとうございます。百瀬さん、すみません、どういう視点があれば、百瀬さんのようなお店とのつき合いがもっと広がるのか、もっと百瀬さんのようなお考えの小売店が増えるのかという点について、教えていただければと思います。

○百瀬 二つあります。一つは、お店から出る食品残渣には食べられないものと本来は食べられるものがありますが、もともと食べられるものは売れ残り商品なのです。お店が商品を捨てるのは損でしょう。店に応じて売れ残りがたくさん出て、それらを廃棄やリサイクルすれば、そのコストが高額になり、その上商品を廃棄するのですから、利益が減ります。だから、スーパー・マーケットはまず商売で考えたら、できるだけ残さないで販売することが大切です。ところが、お刺身1パック500円、夕方になったら3パック1,000円、どう思いますか。買っちゃうでしょう。でも買っても食べられないでしょう。だからといってお客様に買ってもらって、家庭



百瀬氏

で食べきれなくて捨てるのは問題です。最近、そのバンドルというまとめ売りは減っているはずです。10年ほど前に、消費者団体の皆さんとお話ししたときに、お聞きしたところ1本100円の大根を2本100円で売ったところがあったらしいのです。「百瀬さん、大根2本で100円はまずいだろう」と言われたのです。大根2本も買って食べきれるのかと。だから、消費者がちゃんと食べきれるような売り方、例えば500円のお刺身なら300円で売れれば、一つでいい人は300円で買っていくだろうし、三つ買いたい人は900円で買っていく。でも、3パックいくらみたいな売り方はよくないということが一つですね。

それから、もう一つは、やっぱり消費者の方にどのように買ってもらったら、料理のメニューにつながるかという考え方ですよね。私、何となくニンジンとかタマネギとかトマトは多めに買っちゃうんですよ。多めに買って、タマネギとかはまだいいですよ。ニンジンの化石とか、トマトの何かひからびたのとかいうのが冷蔵庫にあつたりするとんでもない主婦なので、だから、例えばニンジンとトマトとそれからタマネギがあつたら何ができるのかということをちゃんとわかって、使ってもらえるようなメニュー提案ができれば、多分、私のような主婦も、トマトはシチューにすればいいとか、いろいろ考えられると思うのですよね。

お肉を冷凍するにはどうしたらいいのかを研究したチームが名古屋市にあります。私が名古屋市の消費者団体の皆さん方に、「私、よく冷蔵庫の中で化石ができる」と言いましたら、冷凍すればいいのよと言われたのです。でも上手に冷凍しないと、解凍したときにおいしくない。そこでお肉を上手に冷凍するとおいしく食べられるという方法について、市民団体の皆様方が冷凍庫メーカーとか、パッケージ、フリーザーパックだとかラップとかつくっているメーカーと組んで実際に実験をしました。調理したりして残ったお肉や3パック1,000円で買って帰ったお肉はこうやっておけばおいしく経済的に食べられるという方法を広めました。そのように、小売業にとっては損しない、商品を捨てないで済み、お客様にとってもお得で便利、そういう取組を広げていけば、食べ物を大事に、残さないで使っていただけると思います。

○崎田 ありがとうございます。小売店にとっても、しっかりと売り切ることもコスト削減につながりますし、それと消費者にとってもお得で便利な暮らしにもつながるということで、今、伺ながら、消費者とお店とかいろんな方が常に話し合って交流し合っていくことが大事と思いました。

会場の方で、もう少し質問をしたいとか、そういう方いらっしゃると思います。何人いらっしゃいますか。今、2人の手が挙がりました。ありがとうございます。では、まず質問をいただきます。

○質問者 私は一般市民ですけれども、今、お話をしている食べきり運動は、食品として商品になったもの、

それから家庭で大根、ニンジンなど原料を使って作ったお料理、食品を、もったいないから食べきりましょうというお話ですね。先ほどましたが、なぜこういうことを考えなきゃいけないかというと、我々は命をいただいた。米、植物、肉、魚、みんな命ですね。これをいただいたんだから、やはり無駄にせずに食べきりましょうというお話ですよね。そういう意味から言いますと、食品とか商品になる前の段階、端的に言いますと、今問題になっていますイノシシとかシカは農作物の害があるということで、今どんどん駆除されていますよね。それが全部ごみとして捨てられてしまっている、埋め立てられていますよね。だから、そういうことから言えば、これもやはり食べきり運動という観点から言えば、食べてあげなければいけないのではないかと思います。

○崎田 大事な質問、ありがとうございます。そういう最近増えている、駆除している動物たちの命もいただいたほうがいいのではということですが、後で田中さんにお話をいただこうと思います。手を挙げていたもう一人の方、質問をお願いいたします。

○質問者 福井県さんの南隣に位置します滋賀県庁の者でございます。滋賀県としまして、まだ正式決定ではないのですが、そういう食べきり運動的なものをこれからやれればいいなと思っております。これから個別に各県あるいは松本市さんにもまたお伺いしながら進めていきたいと思っております。お伺いしたいのは、福井県さんでは、生活系ごみにおいて少しずつ効果が出ているという話がありましたけれども、実際、廃棄物量全体で見て、どれくらい削減効果があるというふうに感じておられるでしょうか。滋賀県でもやるとなれば、どれくらい効果があるのかがどうしても問われますので、もし手ごたえなど教えてもらえたたらというのと、あともう1点は、環境省の田中さんにお伺いしたいのですが、例えばコンビニ業界とか、大量に生産して、大量に残ったものを値引き販売せずにそのまま廃棄するといった問題があるようになっていていますが、スーパーとかでしたら値引き販売とかありますけれども、そういう意味で、商慣習の見直しについて先ほど話されましたが、もう少し具体的に国として考えられていることをお教えいただければと思います。以上です。

○崎田 ありがとうございます。滋賀県で真剣に考えているということでした。まず、福井県の大石さんのほうから、生活系ごみ削減の効果に関してどんな状況だったかというお話をしていただいてから、環境省の田中さんにお答えいただこうかなと思います。

○大石 福井県の食べきり運動による食品ロスの削減量についてはまだ調査がございませんが、食べきり運動をやる前に家庭で量ってもらったごみが何グラムあるか、食べきり運動を実際やっていただいてごみが何グラムになったかという調査を、今年連合婦人会さんに委託をして、今やっていたいている最中でして、その結果が出ましたら、是非県民だけではなく、全国の皆さんにお知らせして、これだけ食べきり運動の効果が一つの家庭で出ますよということを明らかにしていきたいと思っております。

○崎田 ありがとうございます。それでは、田中さん、よろしくお願ひします。

○田中 御質問ありがとうございます。イノシシとかシカによる自然の破壊あるいは農作物への被害について、環境省では、かつては鳥獣保護のみに力点を置いていた法律を鳥獣の管理の法律に法改正をさせていただきました。今、そういう食害のある地域において、狩りをしていただく人々も高齢化して減っていくところについて、どうやって若い人も巻き込んで管理していくかというような取組をする法改正も終わり、今、その施行に向けた取組を進めています。その取組の中の一つとして、先ほどの大切な命を無駄にしないということで、ジビエ料理みたいなのを何とか広めていくような地域の取組の普及もあわせて、セミナーを抱き合わせでやるような取組をやっておりますので、またいい知恵があれば、積極的に環境省のほうにもお伝えいただければと思います。

それでは、滋賀県さんから御質問があった食品ロス削減による効果を大きく掴まえるというところは、多

分、非常に重要な視点だと思います。実は、これは省内でも前から問題になっていて、なぜかというと、その地域によって出てきた食品をどういうふうにして焼却しているか、例えば熱として利用しているのか、あるいは熱利用もなくて燃やしているのかによって、全然効果が違つてきます。何を燃やしているかによっても違つてくるので、その部分をわかりやすく数値化することについて、今、環境省もできていなくて、それでまず見える化ツールを作つて、ミクロのほうの数値を積み重ねていくことによつて、何とか仮定を置いた数字を出していきたいという話を今週していたところで、自治体と協力しながら、地域に即したそついた数値作りをしていきたいと考えております。



次に、商慣行についてですが、今日講演いただきました百瀬さんの資料（図1）にも少しヒントが載つてゐるのですが、先ほど紹介させていただいた商慣行で3分の1ルールがあつて、おいしく食べてもらうために、製造日からの3分の1を小売事業者への納品期限としております。賞味期限までの3分の2は残つてゐるし、さらに消費期限はもっと残つてゐるのですが、3分の1ルールの納品期限を過ぎると小売店に卸せないといふので、平成25年度に農水省が35の飲料プラスお菓子の会社で、賞味期限180日以上のお菓子を販売している企業には納品期限を3分の1ではなくて、例えば2分の1にしたらどうなるかという実験をしたところ、それが全国に広まれば、4万トン、87億円、事業系の食品ロスの1%を改善できるという結果が出ております。そういう個々の取組を少しずつ可能な範囲で変えていくような取組を幅広い事業者の皆さんと話し合いながら広めていきたいと考えております。

○崎田 ありがとうございます。今、自治体の皆さんには、食品ロス削減にしっかりと取り組もうとされています。その上で出てきたものに関しては、きちんと自治体としては対応するというところがありますが、食品リサイクル法でも、自治体をきちんとどう位置づけるか考えて欲しいというふうになっていますが、何かその辺に関して、田中さん、追加でコメントがあれば、お伺いしたいと思います。

○田中 食品リサイクル法という仕組みも実は今日、講演をいただいた百瀬さんの強いイニシアチブで成立した法律と言つても過言でない法律ですが、その中では、できるだけ発生抑制して、でも出てきたものは燃やす前に豚の飼料にしたり、あるいは農家に使う肥料にしたり、あるいはバイオガスにしたりしてできるだけリサイクルする。それでだめでもただ燃やすだけでなく、熱回収するのを後押ししております。各市町村からいろんな食品が出たときに、リサイクルにとってのネックとなっているのは市町村ごとの廃棄物処理法上、収集運搬の許可が必要なことで、これを食品リサイクル法では、食品関連事業者、リサイクル業者、農林漁業者が連携して計画を作つて、関係大臣の認可が得られれば、収集運搬についての廃棄物処理法上の許可を不要とするような仕組みがあり、この計画が今全国で52に増えております。こういった取組が増えることによって、規模の経済を利用した高度なリサイクル、それから安定的なリサイクル原料の確保、それからいい商品を地産地消で作ることによって、例えば、豚肉の味は7割がどういう飼料で作るかで決まると言われていますが、食品廃棄物を有効に使って豚を育てていただいて、非常においしい肉をブランド化して、もともと食品廃棄物を出した事業者、スーパー、百貨店で売つていただく、そういう食品ループを作つていく取組が全国で広がっております。こういった取組は、市町村にとってもメリットがあるところもあります。自治体の廃棄物事業を担当されている皆さんには、本当に一人でたくさんの仕事をされて大変だと思います

が、是非協力してやっていただきたいと思います。

○崎田 ありがとうございます。今、食品ロス削減と生ごみのリサイクルループ、循環資源としてのリサイクルループのお話をいただきました。今、会場の中に食品リサイクル法の見直しのときに、市民の目線で参加をして、リサイクルループをつなぐ市民の役割について、一生懸命発言をされていた鬼沢さんがいらっしゃいます。鬼沢さん、何かコメントがあれば、言っていただければと思います。

○鬼沢 マイクを持たせていただきまして申しわけありません。食品リサイクルもそうですが、今日のテーマの食品ロスに関しても、そういう情報を消費者にどうやって届けるかということまでは今日お話が行かなかったので、自治体の皆さんは非常に頑張っているのですが、是非来年の全国大会では、今回の福井県連合婦人会のように、我が地域の、我が県の消費者団体とか、NPOとか、婦人会とかで食品ロスに特化してこんなことをやっていますという情報も共有できるといいなと思いますので、是非食品ロスの普及啓発については、地域の消費者やNPOを活用して、一緒に学んでいきながら広めていくということを計画していただけるといいなと思いました。



鬼沢氏

○崎田 ありがとうございます。いろいろな立場の連携で、現実の目線で広げていったらという提案がありました。それでは、会場の皆さん、もっともっと意見をお伺いしたいのですが、もうそろそろ締めなければいけない時間になってきました。先ほど福井県さんから、食品ロス削減をきちんとやっていく、食べきりサミットの輪をつなげていきたいという御提案がありました。それに関して、いろいろな自治体からまだ意見表明をお願いしていませんので、松本市さんから順に、最後に一言、意見表明していただければありがたいと思います。

○土屋 松本市も、今、食品ロスをやっている中で、いろんなところから視察にも来ていますし、私どもは逆にそういう団体とお話し合いをすることで、私たちも新たな点の気づきを得ることができますので、是非こういったネットワークを通じて、いろんなことを学んで、さらにそれを市のほうに生かしていく形がでければ、本当に理想だと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○崎田 それでは、大分県の村上さん、お願ひします。

○村上 自治体のネットワークで事例を共有化することで、県でも行き詰まりを感じていることがあれば、それを解決するのに役立つと思いますので、ネットワークができるることを期待しています。

○崎田 ありがとうございます。それでは、山口県の橋本さん、お願ひします。

○橋本 山口県で協力できることがあれば、積極的に情報は提供していきたいと思います。

○崎田 それでは、埼玉県の豊田さん、お願ひします。

○豊田 こういう運動を広げていくためには、やはりいかに伝えていくか、そのアイデアを生むためにはやっぱり情報が必要です。こういうふうな情報共有の場があるということは、特にこれからいろいろ取り組んでいこうと思う私たちにとって、非常にありがたい話だと思いますので、是非よろしくお願ひいたします。

○崎田 ありがとうございます。福井県の大石さん、どちらの皆さんも、やはりこういう学び合いのところは非常に大事で、食品ロス削減という新しい分野でもあり、ネットワーク大事というお話がありました。是非旗を振っていただくのもうれしいなと思いますが。

○大石 ありがとうございます。会場の滋賀県さんとか、私のところにもまた新たに食べきり運動をやりたいというようなお電話を自治体からいただくことも何度もございますので、福井県が全国に先駆けて食べきり運動を始めたということで、私どもで情報提供できることであれば伝えていって、この食べきり運動が全国の運動になっていけばいいなというふうに思っております。

○崎田 ありがとうございます。力強いお話をありました。環境省の田中さん、一言、今日の感想を言っていただければと思います。

○田中 今日は、本当に先進的な取組をいただいている各自治体の皆さん、それから地元で頑張っていただいているNPO、事業者、それから自治体の皆さんにお集まりいただきて本当にありがとうございます。

食品ロスの削減、あるいは食品リサイクルで成功している事例の秘訣みたいな話を、私もいろんな方と会うたびに伺っていると、やっぱりすべてに対して成功する黄金則があるわけではなくて、一つは、コーディネーター役がフットワークのいいアイデアマンというか、周りの皆さんを巻き込んでいって、地域地域の強みを引き出し、障害をクリアしていくことがあると思います。コーディネーター役の方は、ある地域では自治体の職員であったり、ある地域では地元の事業者の方だったり、あるいはNPOの方だったり、あるいは学者の方だったりしますが、学術的な知見、科学的知見での裏打ち、プラス現場での課題を乗り越えていく突破力を備えたコーディネーター役をどんどん全国に広げていく、あるいは地域の中で探していくことが一つの成功の秘訣なのかなと思っております。

今後とも皆さんとともに循環型社会を形成していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○崎田 ありがとうございます。会場の皆さんも最後までお聞きいただいてありがとうございます。今、いろいろ出ましたけれども、現場で、地域でしっかりと多様な方が真剣に意見を交換し合いながら、連携、協働の輪を作っていくという、地道なことの大しさを感じましたし、今、お話しいただいたように、そういう仕組みを作っていくコーディネーター役の人をしっかりとみんなが盛りたてていくことも大事だというふうに思います。先ほど御意見がありましたが、こういう効果を見える化する、そしてそれを定量化することも、県とか自治体が政策として取り組んでいくときには必要になってくると思います。いろいろなことを踏まえながら、本当に命をいただく、そして生ごみとして出してしまうものはきちんと循環させていき、私たちがもう一度、新しい命としていただく、そういう輪をみんなで作っていかなければありがたいなというふうに思っています。

今日の第10回3R推進全国大会のシンポジウムで、皆さんとこういうお話ができた、本当に心から感謝を申し上げます。これからもこういう輪がつながっていくことを心から願っております。

会場の皆さん、そしてパネリストの皆さん、本当に本日はありがとうございました。お疲れさまでした。



(4) 次回開催地挨拶

●手塚俊明（徳島県県民環境部次長）

皆様、こんにちは。徳島県の県民環境部次長の手塚でございます。よろしくお願ひします。それから、本日は私どものマスコットのすだちくんも応援に来ておりますので、よろしくお願ひします。

まず、本日は第10回の3R推進全国大会が歴史と文化、そして食の魅力にあふれるこの福井県で、このように盛大に、大勢の方に御参加いただきまして開催されましたことを、そしてまた大きな成果を上げられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、先ほど栄えある表彰を受けられました皆様、誠におめでとうございます。今後ともよろしくお願ひします。

さて、来年、第11回の全国大会につきましては、私ども四国、徳島県で開催をさせていただくことになりました。ありがとうございます。我が徳島県におきましても、ここ、福井県に負けず劣らず豊かな自然、それから文化がございます。関西からの玄関口であります鳴門海峡には、世界三大潮流と言われます鳴門の渦潮、それから県西部には標高2,000メートル近い四国第二の高峰である剣山、そしてまた日本三大暴れ川であります四国三郎吉野川、これが県土を西から東へと流れてございます。さらに県南部の海沿いには、黒潮の恩恵を受けました海の幸も豊かでございます。このような豊かな自然とその中で育んできました郷土、そして文化を守り、次代に引き継いでいくためには、3Rの推進、また循環型社会の実現が極めて重要であると考えております。

徳島県におきましては、「葉っぱビジネスいろどり」で有名でございますけれども、上勝町における徹底したごみの分別と再資源化によりまして廃棄物ゼロを目指すゼロ・ウェイストの取組を始めとしまして、また平和への思いが込められた広島の折り鶴を衣服に再生する企業とか、道路維持から出てきます刈り草を堆肥化して緑化に活用する高校生など、さまざまな分野の方々がもったいない、物を大切にしようという思いを持って、未来の徳島を創造する活動を続けておられます。また、徳島といえば阿波踊りが非常に有名でございますけども、その期間中は約130万人の人出がございまして、大変な量のごみが出るわけでございますけども、徳島市環境衛生組合の皆さんを始めとしまして、さまざまな市民団体が「ごみゼロ阿波踊り大作戦！」ということで、ごみの分別と資源化を実践するとともに多くの見物客にその大切さを訴える取組を、もう10年以上にわたって取り組んでいただいております。

また、全国から約1万人のランナーが集います徳島マラソン、この開催前には、そのコースの道路沿いをNPOや企業、学校など、皆さんのが力を合わせて日々的に一斉清掃ということで、私どもの遍路文化が育んだおもてなしという美化活動が、毎年、人數を増やしながらずっと続けられております。

来年、3R推進全国大会につきましては、このような魅力にあふれる徳島で、我々県民一同がお接待の心を持って、すだちくんも一緒にお迎えしたいと思っております。本件の自然や文化を楽しんでいただきながら、また本県におけるさまざまな3Rの取組にも触れていただき、徳島らしい大会として開催し、皆様とともに循環型社会を推進して参りたいと考えております。是非とも多くの皆様に徳島にお越しいただきますようにお願い申し上げまして、次期、開催県徳島としての御挨拶とさせていただきます。

それでは、皆様、徳島のほうまでお越しいただきますようお待ちしておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。



(5) 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、1階の3R推進展示コーナーで、主催関係者、講師・パネリスト、出展関係者と3R推進全国大会参加者による名刺交換会が行われました。出席者は、用意された地元福井県の特産品の飲み物「越前茶」

「越前玄米茶」「梅ドリンク」や菓子「羽二重餅」「羽二重くるみ」「敦賀ふわっせ」を味わいながら、歓談しました。



4. 関連行事

(1) 施設見学会

11月21日（土）午前中、食品廃棄物の堆肥化施設でリサイクルループを形成している福井県今立郡池田町のあぐりパワーアップセンター（池田町魚見11-1）を30名が見学しました。午前8時30分に福井駅前に集合し、中型バス2台に分乗して移動しました。池田町では早くから牛糞堆肥を利用した米づくりに取り組んでいますが、より一層の地域資源との循環を図るため、堆肥センター「あぐりパワーアップセンター」を平成14年11月に完成させました。各家庭では、水切りや食品以外のものの分別を徹底し、新聞紙でくるんだ生ごみを指定の紙袋に入れ、ごみステーションに出します。この施設では、その生ごみを「資源」とし、生ごみ1に対して牛糞ともみ殻9の割合で混ぜて良質の堆肥を生産しています。一次発酵で40日間、二次発酵で60日間、延べ100日間かけて完熟堆肥にしています。ビニールなどの異物を取り除き、袋詰めして製品「土魂壤(どこんじょう)」が完成します。年間の生産量は年間560トンで、主に土壤改良材として利用されています。



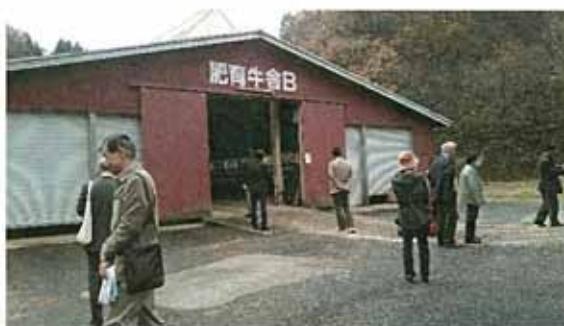
説明を受ける見学者



パドル式発酵層（1次発酵）



トロンメルスクリーン（異物除去）



牛舎



袋詰めされた製品「土魂壤」

(2) 3R推進展示コーナー

3R推進全国大会会場エントランスホールでは、平成27年度3R促進ポスターコンクール入賞作品の展示パネル、また式典・シンポジウム横の1階学習室101・102では3R推進展示コーナーがそれぞれ設けられ、3R推進全国大会開会前には、井上信治環境副大臣、西川一誠福井県知事、崎田裕子3R活動推進フォーラム副会長らが展示を視察しました。3R推進展示コーナーには15団体が出展し、取組などを紹介しました。

【出展者】(順不同)

- ①環境省中部地方環境事務所
- ②環境省
- ③福井県
- ④3R活動推進フォーラム
- ⑤3R推進団体連絡会
- ⑥段ボールリサイクル協議会
- ⑦飲料用紙容器リサイクル協議会
- ⑧アルミ缶リサイクル協会
- ⑨スチール缶リサイクル協会
- ⑩プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- ⑪紙製容器包装リサイクル推進協議会
- ⑫P E Tボトルリサイクル推進協議会
- ⑬ガラスびん3R促進協議会
- ⑭N P O持続可能な社会をつくる元気ネット
- ⑮リデュース・リユース・リサイクル推進協議会



3R促進ポスタークンクール
入賞作品の展示や3R推進展示コーナーを見て回る井上副大臣、西川知事、崎田副会長ら





3R展示コーナーには主催者はじめ関連団体等15団体が出展しました。



(3) 3R体験コーナー

会場の福井県生活学習館3階では、3R体験コーナーが設けられ、福井県による3R工作、紙芝居、食べきりレシピ教室、食べきり運動の歌ダンス、また、中部地方環境事務所によるめぐりふーど親子料理教室など、親子向けイベントが行われ、大勢の親子連れが体験コーナーを楽しんでいました。



5. 資料

(1) 3R推進全国大会開催案内（参加申込書）

表面

裏面

(2) 参加者用パンフレット

3R促進ポスター・コンクール最優秀賞表彰
平成27年度受賞作品のご紹介(順位)

小学生低学年の部	小学生中学年の部
小学生高学年の部	中学生の部

当日の催し

- 3R推進展示コーナー(1Fで開催します)
(大会会場エントランスホール等 10:00~16:30)
 - ★3R推進ポスター・コンクール受賞作品展示
 - ★中部地方環境事務所展示
 - ★3R推進協賛会員展示
 - ★NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット展示
 - ★「ユース・リユース・リサイクル」環境講演会展示
- 3R体験コーナー(3Fで開催します)
 - ★福井県・日本にて「軽減・転換・循環など新しいゴミ」イベント
 - ★中部地方環境事務所・めぐらーごと資源リサイクル展示

ぜひご覧ください。

第10回
3R推進全国大会 in 福井
式典・記念シンポジウム

2015年11月21日 土 13:00開会
(受付開始12:00)

福井県生活学習館(ユ・アイふくい)

主 催

環境省・環境省中部地方環境事務所 福井県 3R活動推進フォーラム

第10回3R推進全国大会実行委員会事務局 TEL:03-6908-7311

4ページ

1ページ

プログラム

第一部 式 典 13:00~13:50

13:00~13:25 ■開会挨拶 環境大臣、社民党中央、3R活動推進フォーラム会長
■来賓挨拶 福井県副知事
■受賞者紹介

13:25~13:50 ■表 彰 式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3R促進ポスター・コンクール最優秀賞表彰

第二部 記念シンポジウム 14:00~16:30

14:05~14:45 ■講 演 「持続可能な社会を目指して」
講師:ユニバーグループホールディングス株式会社執行役員
グループ環境社会責任部長 吉野 利子女士

14:45~15:05 ■特別発表 「食べべりす館」
発表者:福井県議会議員

15:15~15:30 ■パネルディスカッション
「全国食べべりすミート～おいしい日本を食べよう～」
コーディネーター:福井県人会連絡会議会議長
議題:循環型社会形成推進会議会議長 河田 順子女士

16:30~16:35 ■次回開催地挨拶 総務課 環境推進課 次長 子原 明宏氏

名刺交換会 16:30~17:00 学習室 101~102

講師紹介

白瀬 丽子女士

1980年、ユニークな会社へ入社。最初は販売部門で勤めたが、その後、新規事業開拓部門へ異動。新規事業開拓、PR担当として新規事業を販売するところから、2010年に新規事業開拓課長に就任。現在は、新規事業開拓課長として、新規事業開拓課長として新規事業を販売している。

平成27年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
受賞者のご紹介(順位:1位)

3R活動促進企業
花本環境株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動をチャレンジするチャレンジを実現しました。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

北関セコ・コーラボトリング株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

minos株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

ニッコリファインメント株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

新家源興株式会社
新石事業部

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

富士宣傳機器株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

株式会社環境推進工房

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

大和町開拓農業組合

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

三光興業株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

ハイオフィーダーズ株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

日清オーラルディングス株式会社
環境推進室

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

伊藤園株式会社

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

小川 朝

平成27年1月までの3年間で、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。また、3R活動を実現するための取り組みとして、廃棄物を活用した資源化に力を入れています。

3ページ

2ページ

(3) 来場者アンケート

①アンケート票

第10回3R推進全国大会アンケート

アンケートへの御協力をお願いいたします。お帰りの際受付の回収箱にお入れ下さい。

- 1 大会全体についてどのように感じましたか。
① 大変よかったです ② よかったです ③ 普通 ④ よくなかったです
- 2 特に良かったプログラムは何ですか？（複数回答可）
①施設見学会（池田町あぐりパワーアップセンター） ②表彰式
③基調講演「持続可能な社会を目指して」 ④特別発表「食べきり寸劇」
⑤パネルディスカッション「全国食べきりサミット」 ⑥3R推進展示コーナー（1F） ⑦名刺交換会
- 3 良いと思わなかったプログラムは何ですか？（複数回答可）
①施設見学会（池田町あぐりパワーアップセンター） ②表彰式
③基調講演「持続可能な社会を目指して」 ④特別発表「食べきり寸劇」
⑤パネルディスカッション「全国食べきりサミット」 ⑥3R推進展示コーナー（1F） ⑦名刺交換会
- 4 上記で回答いただいたものについて、具体的にどのようなところが良くなかったのか。また、どのように改善すればよいものになると思うか、お書きください。

5. 大会に参加して、3Rに対する意識に変化がありましたか。
① 意識に変化があり、行動につなげようと思った ② 意識に変化はなかった
6. 上記で①と回答された方は、具体的にどのように変化があったかお書きください。
また、②と回答された方は、どう改善すれば、3R行動につながると思うか、お書きください。

7. 3R推進全国大会について何でお知りになりましたか？（複数回答可）
① 案内状が送られてきた ② ネット・メール（具体的に ）
③ 新聞、専門誌等（具体的に ） ④ 被表彰者、施設見学先等ご参加者からの案内 ⑤ ④以外の知り合い
⑥ 県等からの呼びかけ ⑦ その他（ ）
8. 大会の運営方法、スタッフの対応はいかがでしたか
① 大変よかったです ② よかったです ③ 普通 ④ よくなかったです
9. 大会のプログラムや進め方等についてご意見があればお書き下さい。

10. あなた自身について御尋ねします。
(1)御参加のお立場
① 被表彰者又はそのご関係者 ② 施設見学参加者 ③ ①及び②以外
(2)御所属（複数回答可）
① 市町村 ② 一部事務組合 ③ 都道府県
④ 国・関係機関 ⑤ NPO・市民団体 ⑥ 個人
⑦ 報道関係 ⑧ 廃棄物・リサイクル関係業界 ⑨ ⑧以外の企業、団体
⑩ 大学、研究者、コンサルタント等
- (3) 本日はどちらからご参加いただきましたか?
① 福井県内 ② 福井県以外（ 都道府県）

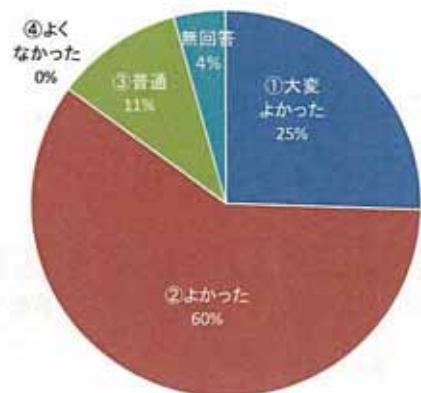
11. その他、ご意見があればご自由にお書き下さい。

御協力ありがとうございます。

②アンケート集計結果

第10回3R推進全国大会来場者アンケート集計（回答数 94名）

1 大会全体についてどのように感じましたか。



2 特に良かったプログラムは何ですか？（複数回答可）

(単位：人)

①施設見学会	13
②表彰式	5
③基調講演	49
④特別発表	48
⑤パネルディスカッション	55
⑥3R推進展示コーナー(1F)	10
⑦名刺交換会	0
無回答	4

3 良いと思わなかったプログラムは何ですか？（複数回答可）

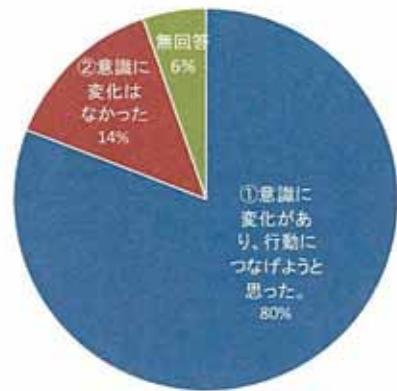
(単位：人)

①施設見学会	0
②表彰式	7
③基調講演	5
④特別発表	5
⑤パネルディスカッション	1
⑥3R推進展示コーナー(1F)	4
⑦名刺交換会	2
無回答	75

4 上記で回答いただいたものについて、具体的にどのようなところが良くなかったのか。また、どのように改善すればよいものになると思うか、お書きください。

- ・全国表彰ということで、このような場で紹介できるのはいいと思うが、もう少し時間が短かったらよかったです。
- ・当大会のメインは何ですか？式と分けた方が良いと思う。写真撮影などは先にできないのだろうか。
- ・情報量が多くて消化しにくかった。
- ・見学会そのものは大変よかったですが、集合時の案内及び東口での乗車場所の案内など不十分で、20分以上ウロウロせざるを得なかった。アオッサの表示もあるとよかったです。
- ・会場が暑すぎました。
- ・内容はよかったですと思うが、時間はある程度守ってほしい。
- ・成功した事例をもっと出してほしかった。
- ・全体的な時間が長くなり、中だるみした感じ。
- ・食品リサイクルについて、企業ないし自治体の取組を知ることができてよかったです。もう少し国としての取組が紹介されるとよかったです。
- ・施設見学会に参加したかったのですが、集合時間が早すぎたと思いました。
- ・リサイクル製品など、実物が展示されていればよかったです。
- ・展示のみではなく、資料の説明ができる担当者の配置。
- ・食べきり寸前終了後の体操。

5 大会に参加して、3Rに対する意識に変化はありましたか。



6 上記で①と回答された方は、具体的にどのように変化があったかお書きください。また、②と回答された方は、どう改善すれば、3R行動につながると思うか、お書きください。

<①と回答された方>

- ・意識改革だと思います。あらゆるデータから大切なことだと思っているが、実際にはなかなかつながらない。地球の将来がどうなるか。将来への危機感をPRしてはどうか。20年前の夏の低温、その翌年の水不足は忘れられない。
- ・ほんやりと知っていた程度だったが、より深く理解できた。
- ・日々の料理をたくさん作らず、1回で食べきれる量を作る。冷蔵庫の中にあるものはきちんと把握しておく。
- ・スーパーで安いから買ってしまうところを、注意したいと思いました。
- ・施設見学会で生活しています。いろいろ話し合いながら、今は当たり前になった。そして、さらに工夫をこらし進めていきたいと思います。生ごみリサイクルをしないと忘れ物をしたような気持ちになります。
- ・これからは自分の置かれた地域全体で取り組まなければならないものだと気づきました。
- ・漫然とした取り組みを目的を持った取り組みにできそうだ。
- ・野菜も残さず食べるレシピを実践しようと思った。
- ・ゴミを出さないことの大切さを実感しました。
- ・百瀬さんの話を聞き、お得で便利な買い物を心がけたいと思った。取組を進めるうえでコーディネーターの重要性を認識し:
- ・百瀬氏の講演を聴き、小売店の立場からの熱心な思いを感じ、説得力があった。自分も行政マンとして頑張ろうと思った。
- ・マイバッグを持参する。
- ・必要な物しか買わないようにしたい。生ものばかり一度に買わず、日持ちするものと組み合わせた買い方を心がけたい。
- ・子・孫世代に3Rについて家庭・学校・社会生活において、広がるよう活動・運動していきたい。
- ・身近な食事(食品ロス)に関する内容で、ごみを減らすためにどうすべきかが理解しやすかった。
- ・食べきりの重要さがわかり、食べきりを心がけようと思った。
- ・スーパーで見かけるようになった、量り売りがこの運動の成果だとは気づかなかった。たくさんの協力店や応援店の取り組みをぜひ活用したいと思います。
- ・日本全国でこれほどたくさん3Rに関わり、それを推進していこうという人がいるということを表彰で知ることができたので、自分でもできることから業務以外でも始めていこうと思った。
- ・食品廃棄物の削減に食育や健康づくりと関係づけて盛り上げていく仕組みを検討してみたい。
- ・食べきり運動がどのように展開されているかについて、当事者から具体的に話を聞くことができ、自分の地域でもどのように進めていけばよいのか参考になりました。
- ・消費者として、買い分けできる人になろうと思いました。
- ・生ごみの堆肥化の推進。
- ・リサイクルよりも前の2Rが重要になると思いました。必要なものは買わない。買う前には本当に必要か考えるなど。

<②と回答された方>

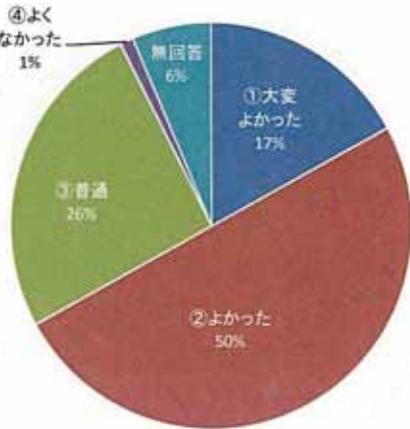
- ・田舎に暮らしているので、食品の残り物は飼料、肥料にしています。食べきりは、心がけたいと思います。業界は食品ロスを考えてほしいと思います。
- ・すでに心がけている。
- ・大会参加している方々はすでに意識が高いので、学校教育、社会教育を通じた地道な活動が大切と考える。
- ・すでに包装の少ない食品購入、捨てない料理を実践しており、新しく3Rを進めようという点では役立つ情報はなかった。
- ・もともと意識して食品ロスを出さないように努力している。

7 3R推進全国大会については何でお知りになりましたか?
(複数回答可)

(単位:人)

①案内状が送られてきた	16
②ネット・メール	10
③新聞、専門誌等	5
④被表彰者、施設見学先等ご参加者からの案内	2
⑤⑥以外の知り合い	3
⑥県等からの呼びかけ	58
⑦その他	8
無回答	4

8 大会の運営方法、スタッフの対応はいかがでしたか?
(複数回答可)



<②と回答された方>

- ・福井県のメールマガジン
- ・3R活動推進フォーラムのメールマガジン

<⑦と回答された方>

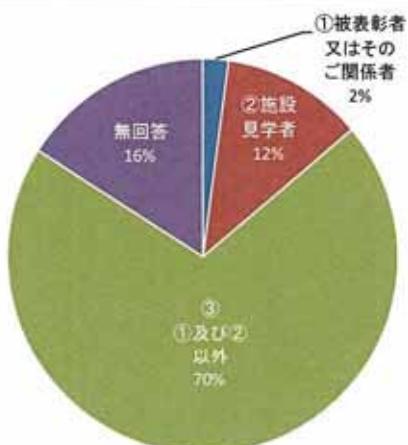
- ・福井県内施設でのパンフレット
- ・県連婦人会
- ・毎年、組織会員を参加させている

9 大会のプログラムや進め方等について御意見があればお書き下さい。

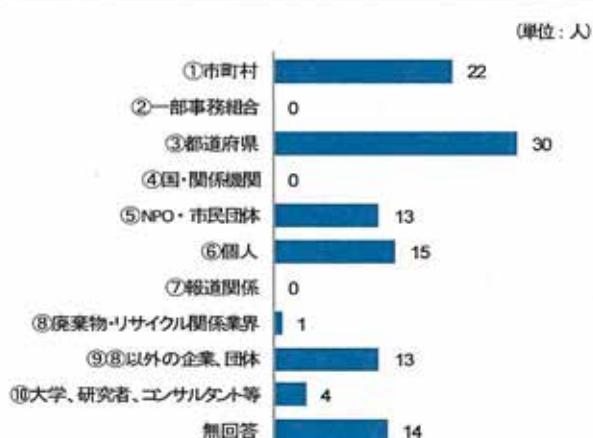
- ・大変よかったです。この会場周辺では他の催しがあったのか、駐車場不足がありました。
- ・毎年来場していますが、特にわかりやすかったと思います。
- ・食品ロス、食べきりにテーマを絞ったのがよかったです。
- ・ふくい味の祭典との関連がよくわからない。隣で実施しているのが、行ってみてわかった。
- ・特別発表「食べきり寸劇」は元気をもらい、楽しい雰囲気になってとてもよかったです。
- ・シャトルバスも両方あるが、お互いに聞いてもわからなかつた。
- ・パネルディスカッションが特によかったです。
- ・パネルディスカッションは時間を守ってほしい。
- ・来賓紹介はシンプル(芳名読み上げ程度)にし、他のプログラムへの時間確保を。
- ・表彰と講演とを切りはなす。例えば、午前と午後に。
- ・表彰の時間が少し長く感じた。
- ・時間はもう少し短いほうが最後まで参加できると思う。
- ・開始時間が午後からだったため、終了時間が16時30分までは少し遅いかもしれません。
- ・日程の発表が遅かった。出張のホテルの手配に苦労した。
- ・事前の広報活動が至らないため、県民に知られていない。
- ・行政からの案内状が遅く、人集めに困った。
- ・ワークショップの形式を取り入れてはどうか。来場者も全員が何か意見を述べる場があればよいと思う。
- ・環境のイベントなのに空調は温度設定が高めではなかったか。さらにパネルディスカッションでドリンクがペットボトルだった。こういう点に3Rを感じにくいのではないかと思う。
- ・土曜日の開催にもかかわらず、施設見学会の設定があったので、参加してたいへん参考になりました。今回学んだことを明日からの活動に生かしたいと思います。
- ・耳の不自由な方のために大画面に発言を映していたのはとてもよいと思いました。ただ、内容や用語を把握している人をそばに配置して、すぐに修正するとよいのでは?不正確な点は残念でした。
- ・手話の活用、よかったです。

10 あなた自身についてお尋ねします。

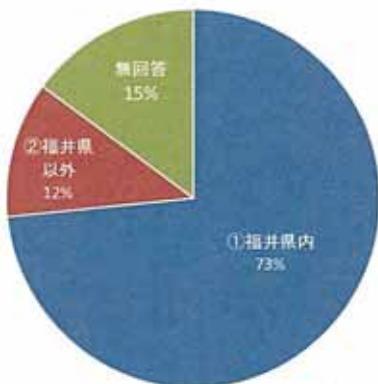
(1) 御参加のお立場



(2) 所属（複数回答可）



(3) 本日はどちらから御参加いただきましたか？



<②と回答された方>

(単位：人)

徳島県	3
東京都	2
青森県	1
富山県	1
愛知県	1
大阪府	1
広島県	1
福岡県	1

11 その他、御意見があればご自由にお書き下さい。

- ・継続的な活動があると良いと思う。
- ・未来へむかって、もっともっと一般の人達に知ってもらえる取り組みをしてほしい。教育の場が効果的。
- ・全体的に講演はよかったです。
- ・パネルディスカッションの結果概要を環境省HP等で掲載して、参加できなかった方へも広めてほしい。
- ・会場の暖房が効きすぎ。(節電もエコ)
- ・ふくい食育リーダーの立場で参加しました。講演の中でたくさんの事を学ばせていただき、参加できたことに感謝しています。自分自身のまわりで出来ることから実践し、近所で、集落で、町をあげて、進めていきたいと考えています。
- ・昭和20～30年代の生活習慣がすっかり変わって、ものを無駄にする大人社会を作ってしまった。その反省をこめて、幼いもの、若い人たちに再認識した課題を共有していくつ、将来を見すえたい。
- ・地域の人々に広めていく必要がある。
- ・期日等をネットで知ったのは11月。もっと早ければ、他の会員に知らせられた。今年は7名しか参加できなかった。
- ・個人個人が自分でわかるような取組みがあれば、365日がんばれると思うのだが。
- ・せっかくの全国大会なので、もう少し広報に元気張りがあってよいのではないか。県メルマガで直前まで届いてなかった。
- ・終了時間が4時30分は少し遅いと思う。交通事情もあるでしょうが、10時開会、3時終了はどうでしょうか。昼食は自由で。
- ・受付時に会場の案内があるとよかったです。最初どこに行けばよいかわからなかった。(13時から式典がこの1階の講堂であります。それまでには、1階の3R関連展示や3階をご覧になってお待ちください。など)
- ・大変勉強になりました。
- ・とても素晴らしい企画でした。
- ・全国大会のわりに、一般市民にPR不足ではないかと思いました。
- ・フードバンクや外食産業など多様な立場の方をよんだらよいと思う。
- ・来年は徳島県で開催ですね。徳島県でお会いしましょう。
- ・食べ残しをなくそう。家庭で残さず食べよう。冷蔵庫の掃除、今まで使っていなかった野菜の皮！もったいないデー。今日から家庭において、実行していくと再度確認しました。

「食べきり」全国発信

運動拡大、本県など連携へ



パネル討論で本県などが食べきり運動の取り組みを紹介した3R推進全国大会

大会はリデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の3R活動を広げる目的で毎年開かれ、本年度は初めて。環境省、3R活動推進フォーラム、福井県が主催し、全国の自治体、企業、団体などの約400人が参加した。

「全国食べきりサミット」と題したパネル討論では、環境省の担当者が全国で食品の廃棄物は年間約2800万トンに上り、そのうち食べ残しや直接廃棄などの「食品ロス」は約642万tを占めるなど説明。家庭の生ごみの約4割は食品ロスとし、食品の廃棄物削減やリサイクルの取り組みが重要と指摘した。

「食べきり運動」を進めている福井、埼玉、山口、大分の4県と長野県松本市の担当

ごみ減 3R推進 福井で初大会

400人参加 パネル討論や寸劇

「ごみ減量と循環型社会の推進について考える『第10回3R推進全国大会』は21日、福井市の県生活学習館で開かれた。食べ残しなど食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を減らそうとパネル討論で本県をはじめ5自治体が進めている「食べきり運動」を紹介し、全国に発信。自治体同士の連携や運動拡大を図るネットワークづくりに取り組むことも申し合わせた。(竹内史幸)

大会はリデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の3R活動を広げる目的で毎年開かれ、本年度は初めて。環境省、3R活動推進フォーラム、福井県が主催し、全国の自治体、企業、団体などの約400人が参加した。

「全国食べきりサミット」と題したパネル討論では、環境省の担当者が全国で食品の廃棄物は年間約2800万トンに上り、そのうち食べ残しや直接廃棄などの「食品ロス」は約642万tを占めるなど説明。家庭の生ごみの約4割は食品ロスとし、食品の廃棄物削減やリサイクルの取り組みが重要と指摘した。

「食べきり運動」を進めている福井、埼玉、山口、大分の4県と長野県松本市の担当

者は「宴会のお開き15分前の食べきりタイム」や「わが家のエコ料理コンテスト」「幼児向けの紙芝居」などの実践例を示した。

福井県循環社会推進課の大石光紀主任は2006年度に始めた「おいしいごい食べきり運動」について、「はら元りの利用や週1回食材を使い切る日の設定など、家庭の実践チェック表を作ったと紹介。飲食店などの運動協力店が1047店、スーパーなどの家庭応援店は161店に上る」とした。

この大会を機に「自治体同士で情報交換し、課題を話し合ったおもちゃを修理する病院や食べきりメニューの親子調理教室などもあり、大勢の人でにぎわっていた。次回の大会は徳島県で開かれる。

ブ・ホールディングスの百瀬則子執行役員が「持続可能な社会を目指して」をテーマに講演した。福井県連合婦人会の会員は、食べきりを啓発する寸劇を披露した。

会場では、開運イベントの

壊れたおもちゃを修理する病

院や食べきりメニューの親子

調理教室などもあり、大勢の

人でにぎわっていた。次回の

大会は徳島県で開かれる。

3R推進向け討論 福井で初の全国大会



自社の取り組みを紹介する百瀬則子部長=福井市の県生活習慣研究会

「みの削減やりサイクル」を考案する「3R推進全国大会」が二十一日、福井市の県生活学習館（五
一・アイふくい）で開かれ、三百八十人が参加した。3Rは「リデュース（削
減）、リユース（再利
用）、リサイクル」の略文
字を表し、全国大会が北陸三県で開かれるのは初めて。ユニーグループ・ホー
ルディングスの百瀬則子・グルーピング環境社会貢献部長が講演し、容器包装削減
した自社の取り組みなどを

紹介した。小売店から出る食品ロス（食品廃棄物）について「ロスの発生場所や原因、種類を追究することで削減できる」と指摘した。

県松本市などの担当者ら六人による討論会もあつた。
福井県の担当者は、忘年会シーズンなどに飲食店や企業にロス削減を呼び掛け
る「食べきり運動」について紹介し、「宴会の席では、開始後三十分、終了前十分など、しっかり食べることを時間で設けて」と呼び掛けた。
(上原梨花)

県民福井 11月 22 日

ごみの削減や
再利用考える
福井で全国大会

ふくい）で開かれ、三百八十人が参加した。3Rは「リデュース（削減）、リユース（再利用）、リサイクル」の頭文字を表し、全国大会が北陸三県で開かれるのは初めて。ユニークループ・ホー

ルディングズの百瀬則子・グルーブ環境社会貢献部長が講演し、容器包装を削減した自社の取り組みなどを紹介した。小売店から出る食品ロス（食品廃棄物）について「ロスの発生場所や原因、種

類を追跡する」とて削減できる」と提案した。

(上原梨花)

中日新聞 11月24日

第10回3R推進全国大会 21日に福井市で



3R促進ポスター・シール大賞の受賞作品

市ヶ谷麻々さん
(小学生・中学年の組)谷村寧さん
(小学生・中学生年の組)鶴井清さん
(小学生・中学年の組)和田真美さん
(中学生年の組)

循環型社会推進功労者表彰 21の企業・団体・個人に



「食品廃棄物をはじめとした3Rの取り組みについて」「テーマにシンポジウム

開催される予定

環境新聞 11月18日

福井県で3R推進全国大会を開催へ



昨年10月に神奈川県相模原市で行われた第9回3R推進全国大会



昨年のモデルディスカッションのようす



ウェイスト マネジメント 11月 15日

環境省、3RF等が主催
21日に福井県生活学習館で

福井県は、資源循環社会の実現を目指して、資源的有效利用と廃棄物の減量化、資源のリサイクルを推進するため、3R（Reduce、Reuse、Recycle）推進全国大会を開催する。昨年10月に神奈川県相模原市で開催された第9回大会では、多くの自治体や企業が登壇し、3Rの取り組みや実践事例を発表した。今大会では、これまでの経験を踏まえ、より実践的な議論や交流を通じて、3Rのさらなる普及と実現を目指す。会場は福井県生活学習館（福井市）で、21日（土曜日）午後2時から午後5時まで開催される予定だ。

会場には、3Rに関する展示やワークショップ、モデルディスカッションなど、様々な活動が用意されている。また、福井県内の自治体や企業による3R実践事例の紹介、3Rに関するセミナーなども行われる。会場では、3Rの実践事例や成功事例を発表する機会があり、参加者は各自の取り組みや課題について意見交換することができる。また、会場では、3Rに関する情報収集や連携強化のためのネットワーキングの場ともなる。会場には、3Rに関する情報収集や連携強化の場となる。会場には、3Rに関する情報収集や連携強化の場となる。

会場には、3Rに関する情報収集や連携強化の場となる。

会場には、3Rに関する情報収集や連携強化の場となる。

福井県で3R推進全国大会開く



今年の全国大会は21日に福井市の福井県生涯学習館で開催された。



功業側に対する環境本問審議が行われた。



屋敷ヨークーには多くの人が集まつた。

木を競う「がんばれ」を子
一馬にて木太がイビカッ
ーションが行われた。結果
猪俣組物・リサイクル対
策部からは、鹿児島市と
鹿児島リサイクルの連携方
向が示され、また、細川組
の鹿児島リサイクル制度
の直回しが行われたが、
会員間組物の活用問題から
直回しが実現されず、直回
した鹿児島口へ運搬された形
み、直回しが実現されなか
った。次に、猪井大輔
県議会議員、山根大

食品リサイクルがテーマ —あらためて食品ロス削減を考える—

—あらためて食品ロス削減を考える—

ウエイスト マネジメント 12月5日

食品ロス削減など事例を発表

環境省／3R活動推進フォーラム

3R推進全国大会を開催

環境省と3R活動推進フォーラムは11月21日、福井県生活学習館（福井市）で、「第10回3R推進全国大会」を開催した。当日は、全国から約250人が参

加した。井上副大臣は、「3Rの先駆的な取り組みを全国に広げていくた



食品ロスの削減などについて議論された

めにも活発な議論をしていただきたい」と話した。

記念シンポジウムでは、「持続可能な社会を目指して」との演題

で、ユニークループ・ホールディングス執行役員の百瀬則子氏が登壇。廃棄物全般から、生を抑制する、食品ロ

スの先駆的な取り組みを全国に広げていくた

い日本を食べきりよう」のテーマで、3R

活動推進フォーラム（副会長の崎田裕子氏をコアディネーターに）、環境省から田中良典氏をはじめ、福井県・埼玉県・山口県・大分県・長野県松本市の担当者がパネリストとして登壇した。

は、食品リサイクルの最新動向から、廃棄物の排出削減における各

地域の取り組みなどの運動の取り組みを紹介。企業やホテルと協力して「食べきり運動」

を推進する他、県連合

婦人会と連携し、若い

世代への普及啓発活動

を展開してきたとし

た。

参加者から「全国食

べきりサミット」を今

年で終えるのではなく

く、来年も聞きたい

との声があった。

食べきり運動を全国へ発信

第10回 3月開催全国大会



「口元からわれた第一回はお代物
では、はじめに耳にした吉野屋の太鼓
ばかりの口回りが記憶に残る。『おお
きに』、「一筋縫合縫い」など、吉野屋
の名前を冠するものが数種あるが、其
中の吉野屋の御馳走の味は、吉野屋の太
鼓ばかりの口回りに似ていて、たまに、
吉野屋の太鼓ばかりの口回りの味を、吉
野屋の太鼓ばかりの口回りの味と呼ぶ。
吉野屋の太鼓ばかりの口回りの味は、吉
野屋の太鼓ばかりの口回りの味と呼ぶ。

「カントン式長寿考査」は、4部門、人間がどれだけ、身に付けるべきかを評定する。年齢別に、10歳未満、11歳以上、20歳未満、21歳以上、30歳未満、40歳以上、50歳以上、60歳以上、70歳以上、80歳以上、90歳以上、100歳以上など、12段階で評定される。



第11回 さる井上壁頭園大作



或通过社会形式或通过劳动者的直接或间接的干预



「日本語×英語」の「翻訳」



第10章 多线程



卷之三



胖子専門でにぎわう媒体報酬コード



• 首頁

「おいおい話しあつ日本食で日本食でくわううう！」
「マハカルナイスカラクション」
NPO法人特許可能な社会をつ
元気本^{フット}理事長・3年活動推
デイネーラーで行わねた。
アリリストとして登壇した振舞者
田畠哲吉・山口県環境部環境課長課員
リサイクル講主技術課長・鈴木清太
氏・大分県生活環境部環境課長課員
講主事・村上英紀氏・長野県環境部環境課長
講主事・土屋良輔氏・岐阜県環境部環境課長
講主事・川上英紀氏・長野県環境部環境課長
がパネリストとして登壇し、それ
の取り組みを紹介した。

連絡部次長・手塚俊明氏があつた。事後、示コニーーで名前交換会が行なわれた。大会式典及びシンボルダウムには38人が参加したほか、3選手を行なった3R体操コートーは親子連れなど500人が参加した。

また、開港式典として午前中に行われた歓迎式典では38人が参加。バスで出田町の生ごみを堆肥化している若狭町田代町あらひりファーマアセシターを見学・午後大雪に参加した。W

(3R活動部道ファーラム藤本民兵)

月刊廃棄物
平成28年1月号

**第10回3R推進全国大会
開催報告書**

平成28年3月
第10回3R推進全国大会実行委員会
事務局：3R活動推進フォーラム

東京都墨田区両国3-25-5 J I E 両国ビル8F
公益財団法人廃棄物・3R研究財団内
TEL03-6908-7311 FAX03-5638-7164
Mail:info@3r-forum.jp



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

この製品は、古紙パルプ配合率80%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています